2021年度
慶應義塾大学体育研究所
活動報告書

特集：KEIO 2020 project の 5 年間
石手靖君の義塾賞受賞について
ホストタウン功労者として感謝状を受領（KEIO 2020 project）

目　次

「巻　頭　言」 所長　石手　靖…… 1

Ⅰ．特集
　１．KEIO 2020 projectの５年間…… 3
　２．石手靖君の義塾賞受賞について…… 8
　３．ホストタウン功労者として感謝状を受領（KEIO 2020 project）…… 9

Ⅱ．研究活動記録（研究委員会）
　１．個人研究業績・研究教育活動・研究助成……11
　２．所内定例研究会発表要旨……27
　３．浅野基金・学事振興基金報告書……31

Ⅲ．教育活動記録
　Ⅲ―１．授業の実施（教育委員会）
　　１．2021年度体育科目の履修者統計……35
　　２．授業評価の実施……39
　　３．通信教育対象科目……47
　　４．塾内における授業担当……47

　Ⅲ―２．スポーツイベントの開催（スポーツ振興委員会）
　　１．塾内競技大会……48
　　２．公開講座……48
　　３．日吉キャンパスフォトラリー……48
　　４．所内施設の開放……49

　Ⅲ―３．他機関との連携
　　１．一貫校連携……50
　　２．体育会支援……50

Ⅳ．業務活動記録（寺島　博之　主事）……52

巻　頭　言

慶應義塾大学体育研究所
所　長　石　手　　靖

国内では2020年１月のクルーズ船から端を発した新型コロナウイルス感染症のまん延から約２年余りが経ちましたが、未だ収束の兆しは見えてきません。先ずはこのたびの感染症に罹患された方々、そのご家族、感染拡大により日常生活に影響を受けられている全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今年度も慶應義塾大学体育研究所活動報告書を発行することとなりました。2021年度も感染症に翻弄された一年間となりましたが、体育研究所の研究、教育、スポーツ振興の各活動は、所員はじめ多くの関係者の皆様方のご尽力により進められここに記録することが叶いました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

体育研究所設置科目の今年度の体育実技は昨年度の春学期のように休講とはせずに感染拡大防止措置を講じながら開講することができました。ひとえに関係教職員のご尽力と何より履修生である塾生の協力の賜物と思っています。その体育実技の殆どにおいて定員を上回る履修申告がありました。このことは塾生にとって数多くの授業がオンライン形式で開講され、また、キャンパスや教室、そしてサークルなどの活動が制限されている状況において、学生間の会話やコミュニケーションの場として大きく期待されていることが推察されました。

さて、本書の特集で詳しく記しますが、昨夏一年延期となった東京オリンピック・パラリンピックが開催され、慶應義塾ではそれに伴う英国代表チームの事前キャンプを日吉キャンパスに受け入れました。体育研究所ではこの機会を塾生にとっての教育上の好機と捉え、ボランティア学生の育成に精力を傾けました。当初描いた活動内容とはコロナ禍でかけ離れたものになりましたが、結果として十分な成果を上げることができたのではないかと思っています。

2021年６月に体育研究所のOBである綿田博人先生（慶應義塾大学名誉教授）がご逝去されました。三田評論（第1258号）に追想文を執筆させて頂きましたが、私事で恐縮ですが先生にとって私が体育研究所における最初の後輩であったことから沢山の事を教えて頂きました。先生はこよなく愛した野球（Baseball）から何を学ぶのかを説いておられ、体育・スポーツを通じて塾生の人間形成にご尽力されました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、これからも体育・スポーツの道を究め、人間教育の一端を担ってまいりたいと存じます。

以　上

Ⅰ．特集

1．KEIO 2020 projectの5年間

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における日吉キャンパスでの英国事前キャンプをサポートする学生ボランティア組織“KEIO 2020 project”は、2016年8月に発足しました。発足から5年。KEIO 2020 projectは、2012年のロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会を参考にしたKEIOスポーツレガシーの構築・推進を目的に、塾生らが知り、考え、養う過程で蓄積・形成される人間の生きる力を育成するプロジェクトとして歩みを続けてきました。2021年度末までの5年間にわたる歩みと事前キャンプでの実際の活動の様子について、特に後者を中心に概略します。

■事前キャンプまでの準備

図1にKEIO 2020 projectの沿革をフェーズごとに示します。2016年の発足から2019年までの記録については、別資料を参照いただきたい[1)]。この間に組織は大きく成長し、時に1,000名を超える塾生が組織へ登録しています。図2に示すメインメンバーらが中心とな

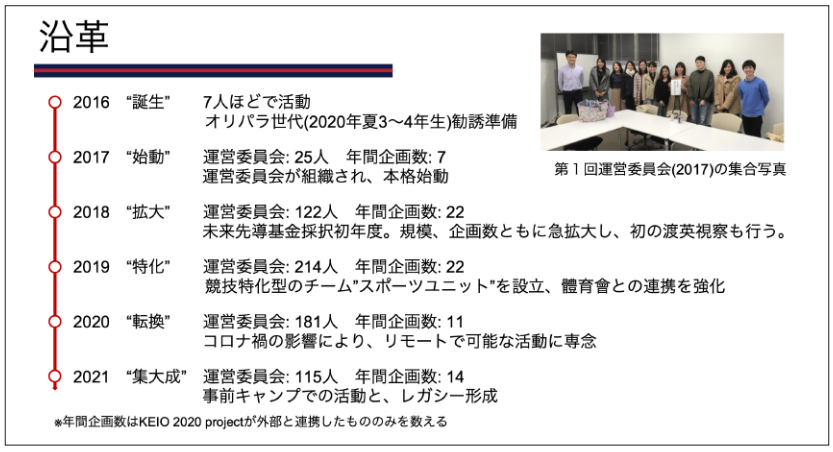


図1

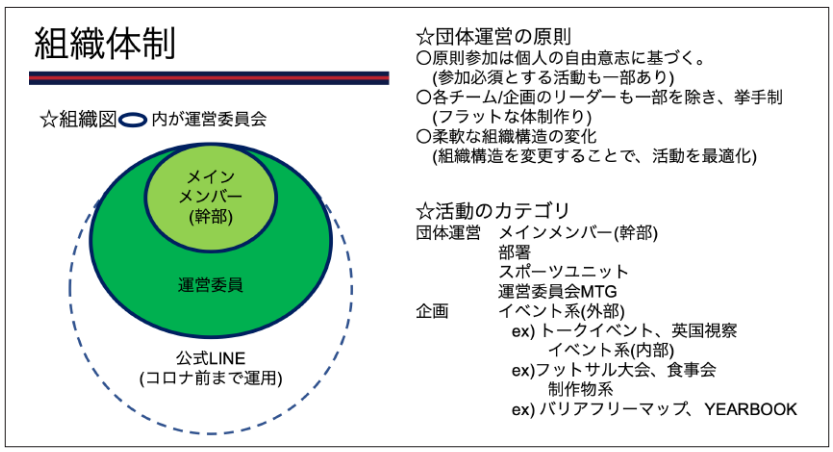


図2

り、事前キャンプまでに多くの経験を積んでおくべく、様々な企画を推進しました（図３に企画の一部を示します）。2018年度・2019年度には未来先導基金の採択を得て実際に渡英し、英国オリンピック協会・パラリンピック協会（BOA・BPA）との直接的な交流や、のちに作成する日吉キャンパスのバリアフリーマップ制作へと接続されています（図３上段左写真は渡英した際の様子）。しかしながら、新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い大会が延期され、日吉商店街・港北区・横浜市・関係企業らと大会直前に企画していた記念館の一般向け柿落としともなる大イベントも中止を余儀なくされました。『さぁ、いよいよ！』という機運とともに培ってきた高いモチベーションも絶たれ、2020年の活動はこれまでと比して大きなものでなかったのは間違いありません（2020年度・2021年度未来先導基金採択による渡英も中止となりました）。一番悔しい想いをしたのは、2020年を４年生として迎えるはずであった塾生らで、事前キャンプに参加することなく卒業を迎えることになりました。発足当時から組織を支え、組織の量・質ともの成長に欠かせない本当に大きな存在でした。残された後輩らは、進級にともなう拠点キャンパスの変更や、就職活動等を理由とした中心メンバーの入れ替わりを行いながらもバトンを受け継ぎ、コロナ禍で可能な活動を推進し、１年後の大会に向けて準備を再開しました。

図３

■事前キャンプでの活動

事前キャンプは７月７日から９月２日まで行われました。塾生らは、バブル・ゾーニング整備がなされたキャンパス内にて期末テスト期間を除く６月中旬から９月中旬まで活動し、８学部から114名を超える塾生が参画しました（図４）。学年分布は、４年生が25％、３年生が45％、２年生が24％、１年生が６％でした。この期間中、日吉キャンパスには数百名の関係者が訪れています。図５に事前キャンプでの成果を、図６に実際の様子をまとめています。具体的には、塾生らは日吉キャンパス内で英国選手らが行動する建物内の計５ヶ所に装飾を施しています。どういった視点に立って装飾を施すかのアイデアは無限にありますが、KEIO 2020 project として渡英した際にBOA・BPAスタッフから教授された『Home from home』という、英国選手らが慣れない土地でも英国を想起しやすいよう配慮した装飾を施しています。他にも、応援動画の作成やBOAスタッフとのオンライン交流会、日吉キャンパス入出構時のバスお出

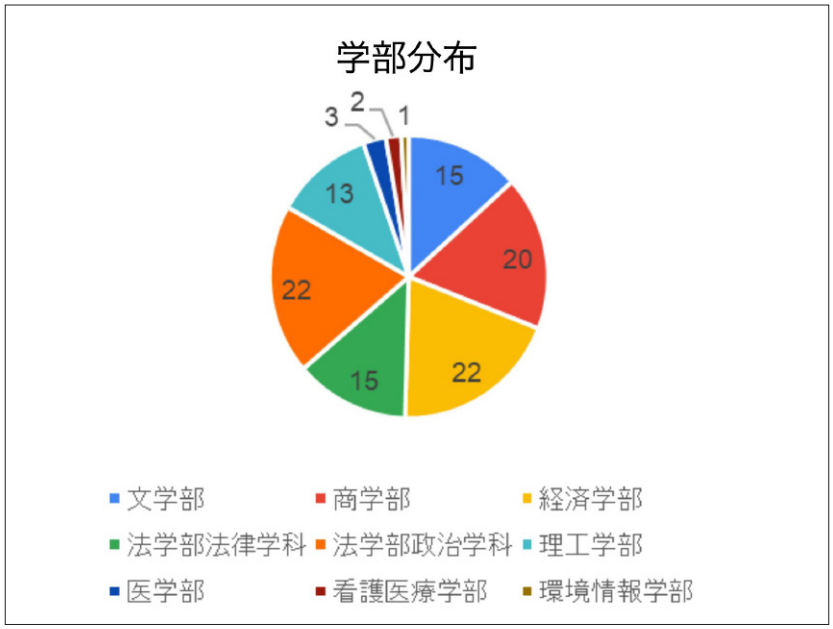

学部分布
15
20
22
15
22
13
3
2
1
文学部
商学部
経済学部
法学部法律学科
法学部政治学科
理工学部
医学部
看護医療学部
環境情報学部

図 4

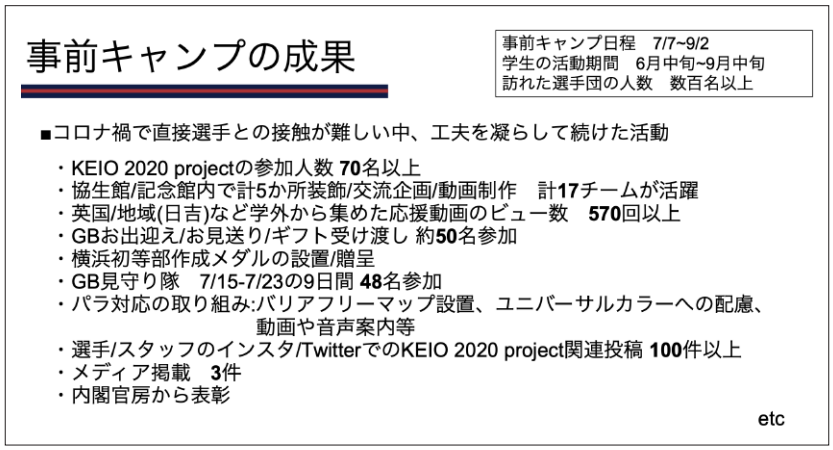

事前キャンプの成果
事前キャンプ日程　7/7~9/2
学生の活動期間　6月中旬~9月中旬
訪れた選手団の人数　数百名以上
■コロナ禍で直接選手との接触が難しい中、工夫を凝らして続けた活動
・KEIO 2020 projectの参加人数 70名以上
・協生館/記念館内で計5か所装飾/交流企画/動画制作　計17チームが活躍
・英国/地域(日吉)など学外から集めた応援動画のビュー数　570回以上
・GBお出迎え/お見送り/ギフト受け渡し 約50名参加
・横浜初等部作成メダルの設置/贈呈
・GB見守り隊　7/15-7/23の9日間 48名参加
・パラ対応の取り組み:バリアフリーマップ設置、ユニバーサルカラーへの配慮、
動画や音声案内等
・選手/スタッフのインスタ/TwitterでのKEIO 2020 project関連投稿 100件以上
・メディア掲載　3件
・内閣官房から表彰
etc

図 5

事前キャンプでの活動
GO GB!
You Rock
Look Cute
MEETING THE LOCALS AND BEING PART OF SUCH A BIG MULTI SPORT TEAM

図 6

迎え / お見送り、小（学校）- 大（学）- 世界を接続する横浜初等部生とBPA 選手とのオンライン交流会等々、様々な取り組みを行いました。

実際に英国選手団にKEIO 2020 projectの活動はどう映ったのかを尋ねると、一例として、

オリンピックテコンドーチームのコーチから
【I am the Taekwondo leader, and we have stayed here for 7 to 10 days, and you're hospitality, your service, the way you go around your business has been exemplary. We hope it's the final piece to allow us even more gold medals. Thank you very much for all your time. Thank you for everything.】

パラリンピックローイングチームのエリン・ケネディー選手から
【I am loving exploring KEIO univ. and we are so appreciative of the work the KEIO 2020 project have put into making us feel so welcome!】

BPA スタッフのルーシークリックモアさんから
【You are recognized as a part of Paralympics GB.】

という声が届きました。塾生はSNSで選手が世界にKEIO 2020 projectのことが発信されるたびに喜んでいました。また一方で、実際にボランティアへ参加した塾生からは、

【選手やスタッフとも関わる機会があり、心がワクワクする瞬間・緊張感のある瞬間が沢山の刺激的な事前キャンプだったことが印象的でした。慶應全体として受け入れをしている感覚も一貫して感じており、初めての感覚で新鮮だった。】
【見通しを持って活動することや、団体内での連絡・連携を密に行うことの大切さを学びました。また、企画をおこす際には、1人ひとりが思い付いたものを出し合い、それをもとに具体的な内容を皆で話し合う、という段階を重ねることでより良いものが生まれることを実感しました。】
【コロナ禍で会えなかった、オンラインでしか会えていなかった方と直接会えたこと、この期間だけで団体に所属する色々な人と関われて話せたことが1番良かったと個人的には思いました。】

という声が寄せられました。

■活動の一区切りと振り返り

2021年12月15日、これまでの活動に一区切りをつけるために、これまでお世話になった多くの方をお招きしてオンライン大感謝会を開催しました。一区切りをつけることに関しては、様々な意見がありました。そのため、教員と塾生らで複数回にわたって意見交換を行い、持続可能性（SDGs）のある取り組みにしていくためにどうしたらいいのかという視点や、人や活動資金集めなど具体的な運営方向に関する視点など、想定できる範囲での踏み込んだ話し合いが行なわれました。本来であれば、2024年のパリ大会で英国が事前キャンプを行う拠点のボランティア関係者にバトンを直接渡す計画でしたが、気持ちと想いを切り替え、活動の記録を明確に残し、いつでも振り返ることができるようにすること、また遠い未来、次の東京大会で事前キャンプが行われる際にOB・OGとして当時を振り返り次世代の塾生へ語り継ぐこと（KEIO 2020 projectの塾生が関連企業の方々にしていただいたような取り組みを次は企業側の人間として取り組むこと）、などを念頭に置き繋いでいくことになりました。そのための一区切りとして大感謝会が開催され、塾内外の多くの方々へ塾生

図 7

自らの言葉で御礼を伝えました。さらなる活動の詳細は図 7 で示す2020年−2021年のKEIO 2020 project活動報告書を参照されたい。

この 5 年間を振り返ると、本当に多くの方々にサポートいただきました。キャンパスや大学の枠組みに捉われない、多種多様な業種・組織・年齢・性別から学ぶ国際的な教育の形は、内閣府からホストタウン功労者として表彰されるに至りました。また、活動の様子や塾生のインタビューなど取材多くのメディアに取り上げられたことも塾生の背中を押し、準備期間からのモチベーションを高め、活動をより能動的にしました。こうして培われた塾生一人一人の生きる力は、慶應義塾大学にとって大きなレガシーになりました。改めまして、この場を借りてKEIO 2020 projectへ関わりを持っていただいた全ての方々に御礼を申し上げます。

【文献】

1．稲見崇孝，福士徳文，東原綾子ほか．英国代表チーム事前キャンプにおけるスポーツボランティア「KEIO 2020 project」の取り組み，オリパラサイコウ．KEIO SFC Journal，20：162-182，2020.

（文責）稲見　崇孝

2．石手靖君の義塾賞受賞について

義塾では学事振興資金によって、1949（昭和24）年以来毎年教職員のうちで、学術上有益な研究業績、教育実践または教育行政上の功績を挙げた者に対し義塾賞を授与し、その業績をたたえている（2021年12月10日発行慶應義塾報第2508号より）。2021年10月12日に行われた学事振興資金委員会において、石手靖君に義塾賞が授与されることが決定した。表彰式は同年11月12日に三田西校舎ホールで行われ、伊藤公平塾長より石手君に表彰状が授与された。表彰業績のタイトルは「東京2020大会事前キャンプにおける英国代表チーム受け入れに向けたスポーツボランティア学生の育成」であった。

日吉キャンパスにおける東京2020大会英国事前キャンプを教育上の好機と捉えた石手君は2016年に KEIO 2020 project（英国オリンピック委員会‘BOA’、英国パラリンピック委員会‘BPA’に所属するアスリートが日吉キャンパスに滞在する期間をサポートする塾生主体のボランティア組織、本活動報告書の別特集で詳述）を他教員とともに立ち上げ、50を超える講習会やボランティア活動等を実施した。例えばマナー講習会の開催、メガスポーツイベントでのボランティア知見獲得、２度にわたる英国視察の塾生引率などがある。これらの実施にあたって発生する関係行政・企業とのやりとり・資料作成・プレゼンテーション方法についても石手君が中心となり指導することにより、塾生が主体となって活動することができた。これらの活動は塾生が社会に出てから大いに役立つものであったと考えられる。

2020年を４年生として迎える塾生を軸に育成プログラムは進行したが、大会の延期により組織の立て直しを迫られる危機もあった。この時も石手君が中心となり塾生と繰り返し意思疎通を図り，難局を乗り越えた。その結果、2021年夏に行われた英国事前キャンプ BOA サポートには72名、BPA サポートには50名の塾生が参加し，備えてきた力を遺憾無く発揮し、塾職員のサポートにも支えられながら有意義な活動を行った。本ボランティアプログラムの立案・展開には、これまでに石手君が培った一貫教育校を含む教職員との連携が存分に生かされており、多くの関係者を統率する姿勢は塾生はもちろん若手教員らにも刺激を与えている。このような石手君の教育実績が価値あるものと評価され義塾賞を受賞したことは、塾生への教育を重要視する体育研究所にとって大変喜ばしいことであった。

（文責）村松　憲

3．ホストタウン功労者として感謝状を受領（KEIO 2020 project）

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたホストタウンの取り組みにおいて、顕著な功績があった個人や団体が選出される「ホストタウン功労者」に、体育研究所が主としてサポートしてきた「KEIO 2020 project」が選出されました。9月28日に行われたオンライン表彰式にて、丸川珠代オリンピック・パラリンピック担当大臣より感謝状を受領しました。このような評価をいただけましたことも、塾内外問わず本活動にご理解いただきサポートいただいた全ての方々のお力添えがあってこそのことです。この場をお借りしてご協力いただきました全ての方々に御礼申し上げます。事前キャンプでの実際の活動については、本報告書特集「KEIO 2020 projectの５年間」をご参照ください。

関連情報

・慶應義塾ウェブサイト（ニュース）
https://www.keio.ac.jp/ja/news/2021/12/1/27-91177/
・東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市ウェブサイト
https://tokyo2020.city.yokohama.lg.jp/hosttown_meritoriousperson/

（文責）福士　徳文

感 謝 状
Letter of Appreciation
KEIO 2020 project（慶應義塾大学体育研究所）殿
KEIO 2020 project
(supported by Institute of Physical Education, Keio University)
貴殿は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に当たり
ホストタウン交流の推進に関し極めて顕著な貢献をされました
よってその功労に対し感謝の意を表し感謝状を贈呈いたします
令和3年9月28日
You have made a very significant contribution to the promotion of Host Town exchanges on the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games.
We present a letter of appreciation to express our gratitude for the achievement.
September 28, 2021
東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進副本部長
東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣
丸川珠代
Vice President for the Headquarters for the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games
Minister for the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games
MARUKAWA Tamayo

感謝状

Ⅱ．研究活動記録

（研究委員会）

１．個人研究業績・研究教育活動・研究助成

石手　　靖　【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）

・日本バレーボール学会副会長

・横浜ビーチバレーボール連盟理事

研究助成等

・“東京2020オリンピック・パラリンピック英国サポート【KEIO 2020 project】を通じたKEIOスポーツレガシーの共創（研究代表者）”2021年度未来先導基金，単年度助成金額2,876,000円.（※新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度より持越）

佐々木玲子　【教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，早期公開，2022.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61(1)：15-25，2022.

・石沢順子，大貫麻美，椎橋げんき，佐々木玲子，原口るみ，奈良典子，稲田結美，渡邉淳，“「跳ぶ」能力を育む教科等横断型学習を支援する保育者・教育者養成に向けた取り組み”，保育・教育の実践と研究：白百合女子大学　初等教育学科紀要紀要，第７号，9-18，2022.

・石沢順子，大貫麻美，椎橋げんき，奈良典子，原口るみ，稲田結美，佐々木玲子，“保育者・教育者養成課程における健康教育の指導法に関する事例研究（1）STEAM教育の視点を活かしたプログラム立案の導入”，白百合女子大学研究紀要，第57号，251-268，2021.

・佐々木玲子，“基礎的動きを身に付けることの重要性”，体育科教育，69-7，36-39，2021.

（執筆）

・佐々木玲子，“「いじめ，虐待，嫌がらせ，差別」がなくなる日へ　スポーツ現場からBAHD根絶に向けた「提言」”，Sport Japan，60号，日本スポーツ協会：24-25，2022.

（報告書）

・佐々木玲子，“運動・スポーツ活動と指導者に対するイメージ”，４～21歳のスポーツライフに関する調査報告書　子ども・青少年のスポーツライフ・データ2021，pp.30-36，笹川スポーツ財団，2021.

学会発表等

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.

・村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山静代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響：大学一年生を対象とした調査から”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.

・石沢順子，大貫麻美，椎橋げんき，佐々木玲子，原口るみ，奈良典子，“「跳ぶ」能力を育む教科横断型学習を支援する保育者・教育者養成に向けた取り組み”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.
・石沢順子，大貫麻美，椎橋げんき，奈良典子，稲田結美，佐々木玲子，原口るみ，“幼児期から児童期の子どもを対象とした健康教育に関する一考察　STEAM 教育を取り入れた食育プログラムの検討”，日本科学教育学会第45回年会，オンライン（鹿児島大学），2021年８月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講演）
・佐々木玲子，“遊びを通した子どもたちへのアプローチ～ JSPO アクティブ チャイルド プログラムとは～”慶應キッズパフォーマンスアカデミーシンポジウム2021，2021年７月.

（講師）
・佐々木玲子，“アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）研修会～理論編～”，公益財団法人日本体育協会令和３年度アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）研修会，新潟県，2021年11月.
・佐々木玲子，“運動遊びが育む心とからだ”，中野区幼稚園教育研究会，東京都中野区，20021年６，７，９月.
・佐々木玲子，“動きの発達”，日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員養成講習会，オンライン，2021年９月.
・佐々木玲子，“女性スポーツ啓発の留意点～幼児から小学生まで～”，日本スポーツ協会令和３年度第１回女性スポーツサポート研修会，オンライン，2022年１月.

（役職）
・日本学術会議連携会員
・日本体育学会理事
・東京体育学会常任理事
・日本バイオメカニクス学会理事
・日本子ども学会理事
・比較舞踊学会副会長
・日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会委員
・日本スポーツ協会指導者育成委員会事業推進プロジェクト委員
・横浜市スポーツ推進審議会委員
・笹川スポーツ財団 SSF スポーツライフ調査委員会委員

研究助成等

・“リズミカルな動作遂行過程からみた調整力の発達特性―幼児の動きの評価と改善に向けて”，科学研究費助成金　基盤研究（C），(19K02593).
・“幼少期から自らの健康を保持・増進できるコンピテンスを育む STEAM 教育の検討（研究分担者：研究代表者　石沢順子)”，科学研究費助成金　基盤研究（C）(20K03258).
・“大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討―ポストコロナの情勢を見据えて―（研究分担者)”，福沢基金研究補助（共同研究），50万円.

村山　光義　【教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）
・Yoshimura A, Seike Y, Schleip R, Furusho A, Ymazaki K, Inami T, Murayama M, Hirose N, “The acute mechanism of the self-massage-induced effects of using a foam roller”, Journal of Bodywork and Movement Therapies, 27：103-112, 2021. 5.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，早期公開，2022.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61(1)：15-25，2022.

学会発表等

・村山光義，“スポーツ選手のための Photobiomodulation Therapy”，第23回日本レーザー・スポーツ医科学学会学術集会，日本レーザー治療学会誌 Vol.20：p39，オンライン，2021. 6. 26-27

・村山光義，“PBMT による身体コンディショニング”第23回日本レーザー・スポーツ医科学学会学術集会，日本レーザー治療学会誌 Vol.20：p68，オンライン，2021. 6. 26-27

・村山光義，野坂和則，稲見崇孝，島典広，米田継武，“上腕屈筋群の伸張性と短縮性運動に伴なう上腕二頭筋硬度変化”，第29回日本運動生理学会，オンライン，2021. 8. 20-21

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響：大学一年生を対象とした調査から”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021. 9. 7-9

・村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山静代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022. 3. 3

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022. 3. 3.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

公益社団法人全国大学体育連合常務理事，2021年 4 月～

研究助成等

・“交感神経活動が筋硬度に及ぼす影響”，文部科学省科学研究費（基盤研究（C））課題番号19K11556，40万円

・“大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討　―ポストコロナの情勢を見据えて―（研究代表者)”，福沢基金研究補助（共同研究)，50万円

当年中の研究教育活動の概要

当年は、所内の基盤研究において、大学体育の目的と評価方法について、コロナ禍とポストコロナを見据えた検討を行うため、web による調査研究を展開しデータを取得・分析した。この分析結果を、(公社）全国大学体育連合関東支部との共催シンポジウム『オンライン（遠隔）体育実技における成績評価を考える』において議論すべく、開催を推進した。一方、筋硬度研究における実験を再開したが、COVID-19の感染拡大の影響が残り、予定した推進ができず、次年度に延長して検討を続けることとした。

加藤　大仁　【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

埼玉県バスケットボール協会裁定委員

当年中の研究教育活動の概要

昨年同様、バスケットボールの戦略・戦術について纏めるべく資料収集やインタビュー、一部資料の翻訳等を進めている。実際にアメリカへ赴き対面で聞き取り調査を行うことができない状況なので隔靴掻痒の感は否めないが、1950年代から1970年初頭にかけて用いられていた代表的なプレイのいくつかについては、当該プレイを導入したコーチやその下でプレイしていたプレイヤー、対戦チームの関係者などからかなりの情報を集めることができた。

村松　　憲　【教授】

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

・村松憲，“機能解剖とバイオメカニクスⅠ，Ⅱ”，第137回健康運動実践指導者養成講習会，神奈川県横浜市横浜国際プール，2021年06月12日.

（役職）

・公益財団法人日本オリンピック委員会　強化スタッフ
・公益財団法人日本テニス協会　JTA アカデミー委員会委員
・日本テニス学会運営委員
・日本スポーツパフォーマンス学会編集委員

山内　　賢　【教授】

学会発表等

・山内賢，荻田亮，市河勉，松井浩，辻和哉，吉田弘法（足利大学），“高齢者の歩容動態を歩行意図から二歩で推測する横断的研究”，第29回日本健康教育学会学術大会（青森），オンライン開催，2021年９月11日～12日ライブ.
・山内賢，市河勉，吉田弘法，荻田亮，香川将大，“高齢者の初期歩行に着目した歩容と転倒予測に関する研究”，第76回日本体力医学会大会（三重），オンライン開催，2021年９月17日～19日ライブ.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

・山内賢，“みんなで歩こうこの街を！長岡をスマートにウォーキングする話をしてみましょう！：①２足歩行の科学　② ポールを用いるウォーキングのテクニック　③ ウォーキングの効果測定”，京都医療センター主催「ウォーキング研修会：長岡でポールを用いるスマートウォーキングプロジェクト」，新潟県長岡市，① 2021. 9. 1　② 2021. 10. 1　③ 2021. 12. 24.
・山内賢，“ウォーキング専用ポールによるスマートなウォーキング体験会 コロナ禍を Foot（ふっと）ばそう！ ～元気の源は動くこと 歩けば命の泉湧く～”，彦根交通安全協会城西支部事業「ポールを使ったウォーキング体験会」しかの商店共催，滋賀県彦根市，2021. 10. 17.
・山内賢，“歩くが歩苦にならない歩喜かた教えます～みんなで歩好（こう）この街を～”，新温泉町ワーケーションモニターツアー「健康講話」，主体：新温泉町役場　おんせん天国室，委託先，株式会社ノヴィータ，兵庫県新温泉町，2022. 2. 17.
・山内賢，“歩きたい（期待）と自然に動く楽しさこそ歩行（好）の心”，聖隷藤沢・元気で長生きプロジェクト特別講演会，社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷藤沢ウェルフェアタウン，藤沢市大庭，2022. 3. 10.

当年中の研究教育活動の概要

「運動不足」このニュアンスは、どの世代にもありうる状態であり、世代、年代や年齢層で推奨される運動量や、健康維持に必要とされる運動量が満たされない場合に表する言葉です。現在は新型コロナがパンデミックになり、その禍で外出自粛、テレワーク、学校の休校や部活動停止等で自宅にこもる人が増え、必要な運動量（身体活動）をこなせなくなり、運動不足が懸念されています。また運動不足は身体だけでなく、心や人間関係にもネガティブな影響を及ぼします。しかし早く介入して対策を行えば、元の健常な状態に戻る可能性があると考えられます。加えて世界保健機関（WHO）の調査によると、実に運動不足は今にはじまったことでなく、2016年の時点で全年齢の運動量が低下していることが指摘されていました。この度コロナ禍の影響で、さらなる運動不足が懸念される状況であり、筋力低下、免疫低下、肥満や生活習慣病（大人から子供まで）への注意、ストレスがたまり精神不安定による不眠症、自律神経失調症などを招く恐れ、うつ病発症の可能性への不安等に注意が要されます。コロナ禍では「蜜」の回避がキーワードであるので、従って運動不足解消のためには、自宅や外でできるパーソナル、もしくは ITC を活用した通信（オンライン）型の運動が良いと思われます。上記に鑑みるとウォーキングは、最も身近で誰にでもできる身体活動の種目と考えられます（歩行に障害があった場合は何らかの工夫で移動というアイデア）。このような中でウォーキング用に開発された近年のアプリケーションの出現は、歩数、活動量をデジタル的に保存して観察する運動不足解消対策の表れと察します。

ここで注目すべき視点は、ウォーキング実施をただメニューや量（歩数および活動量）だけで考えるのではなく質、いわゆるどのような方法や歩容で行ったかを認識することです。量と質の観察の両軸による運動不足の評価（予見、回避と対策）が重要と考えます。コロナ禍で実験検証が制限される中、本年は歩容改善を目的とした３か月間の歩行専用ポールを用いるウォーキング指導介入による実証研究を行ったところ、以下の実績を得た。以下 ① ② ③ ④ は、今後数年に渡る歩容改善を目指すフィットネス専用道具と評価測定方法開発のパイロット研究であり、開発に必要な基礎データ収集として ⑤ を行った。

① 歩容変化を評価するユニークな非接触型測定方法の試案（学会発表）
② 活動量計の開発（企業連携）
③ 歩容改善を目視するインソールのデザイン回想（企業連携）
④ ロッカーファンクションと上肢動作の同調に着目したフィットネスウォーキング専用ポールの意匠を検討（企業連携）
⑤ コロナ感染防止に努めながらの新潟県Ｎ市歩行専用ポールを用いる30分ウォーキングイベント（名称：華美ウォークチャレンジ）実施（期間３か月　３回／週）における歩容・気分・反応時間変化の実態実証調査（京都医療センター協同）

（結果報告）

ポールを用いるウォーキングフィットネスは、単なるウォーキング（日常の歩行動作に従うフィットネスウォーク）と比べて歩幅延伸と歩行比改善が統計的に有意な変化が認められた。統計的な有意差は確認できなかったが、歩行速度向上および歩調改善（数値減少による片足支持時間の延伸によるロッカーファンクション、特にフォアフットロッカー機能向上の予見）、歩行意欲・継続性改善、反応時間短縮等、歩行能力変化傾向の知見が得られた。

吉田　泰将　【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

・吉田泰将，稲見崇孝，山口翔大，髙瀬武志，“大学男子剣道選手における身体組成の特徴―競技レベル，競技歴，練習時間による検討―”，慶應義塾大学体育研究所紀要，第61巻第１号，1-7，2022.
・Yoshida Y, Inami T, Takase T, “Body composition of collegiate kendo players.” J Sports Med Phys Fitness, Vol.61-No10，1431-1432，2021.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講演）

・吉田泰将，“二刀流の秘密―宮本武蔵と五輪書―”，慶應義塾大学日吉キャンパス公開講座「二刀流の豊かな世界」，慶應義塾大学日吉キャンパス，2021. 11.

（役職）

・日本武道学会　評議員　通年
・公益財団法人全日本剣道連盟　普及委員会学校教育部会・委員　通年
・公益財団法人全日本剣道連盟　社会体育指導員養成講習会　講師　通年
・文部科学省委託事業・武道等指導充実・資質向上支援強化委員会　委員・通年
・一般財団法人全日本学校剣道連盟　常任理事・事務局長　通年
・全日本学連剣友会 会長推薦理事　通年
・関東学連剣友連合会 副会長　通年
・東京学連剣友連合会　監事　通年
・慶應義塾体育会剣道部　師範（三田剣友会・副師範）通年
・慶應義塾大学医学部体育会剣道部　師範代行　通年

（資格）

・一般財団法人全日本剣道連盟　剣道教士八段
・一般財団法人全日本剣道連盟　審判講師養成指導講師認定

当年中の研究教育活動の概要

剣道においてパフォーマンスを構成する要素の身体組成データである体脂肪率ならびに FFMI と練習時間や剣道歴との間の関係を，異なる競技レベルの大学男子剣道選手を対象に測定を行なった。その結果，大学男子剣道選手における体脂肪率や FFMI は，これまでの剣道歴とは相関がないことが示唆された。今後は，他の要因も加えて検討していくことで，剣道選手の FFMI に与えている影響を明らかにしていきたい。

板垣　悦子【准教授】

学会発表等

・板垣悦子，木林弥生，小林典子，佐藤典子“健康つくり教室参加者のコロナ前とコロナ禍における健康観・運動習慣調査”，第71回日本体育・スポーツ・健康学会，筑波大学オンライン，2021年９月．プログラム P45

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

・板垣悦子，“健康つくり教室”，慶應義塾大学公開講座「健康つくり教室」，慶應義塾大学薬学部，2021年６月～2022年１月まで月１回開催．

・板垣悦子，「ピラティスにならう、身体と心のバランス」，慶應義塾大学学生相談室グループアワー，日吉キャンパス，2021年12月14日．

当年中の研究教育活動の概要

昨年度はコロナ禍の影響により「健康つくり教室」が中止となったが今年度は定員数50名を半数に減らし、受講者同士の接触を出来るだけ減らすための運動種目の工夫をした上で実施し無事に終了した。

また受講者のコロナ前とコロナ禍の健康観や運動習慣について調査し受講者にフィードバックした。

須田　芳正　【教授】

学会発表等

・松山博明，堀野博幸，須田芳正，福士徳文，“ミャンマー連邦共和国サッカートップレベルチーム選手の競技力向上に関する研究―心理的競技能力診断検査に着目して―”，日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会，オンライン開催，2021年９月．

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）

・慶應義塾体育会副理事（８月まで）

研究助成等

・“海外での指導経験を有する日本人サッカー指導者からみるコーチングについて（共同研究者：研究代表者 福士徳文）”，福澤基金研究補助，1,500,000円

当年中の研究教育活動の概要

・2021年８月より、ルール大学ボーフムに訪問研究員として留学中。研究テーマは、「ドイツサッカーの選手育成システムに関する研究」である。

野口　和行　【教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，早期公開，2022.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61(1)：15-25，2022.

（執筆）

・野口和行，“キャンプの力―スペシャルニーズ・キャンプの現場から―”，小児看護，45-1：95-100，2022.

学会発表等

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響―大学１年生を対象とした調査から―”，日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

・野口和行，“アウトドアゲーム指導法指導法”（公財）日本教育科学研究所，厚木市立七沢自然ふれあいセンター，2021年11月.

・野口和行，“対象の理解”，自然体験活動指導者養成研修会，国立那須甲子青少年自然の家，2022年１月.

（役職）

・大学スケート研究会理事長

・日本野外教育学会理事

・日本氷上スポーツ学会監事

・（公社）日本キャンプ協会常務理事

・（公財）日本教育科学研究所自然体験活動推進委員

・（独）国立那須甲子青少年自然の家スペシャルニーズプログラム企画委員会委員

当年中の研究教育活動の概要

特別な支援を必要とする人たちを対象としたキャンプの教育的効果と課題について、引き続き研究と実践を行っている。（公社）日本キャンプ協会で５年毎に実施している公認指導者が運営・指導する組織キャンプの状況や、青少年教育に関わる団体、施設で行われているキャンプの状況や海外での状況を、キャンプ白書としてまとめ、発行する予定である。

加藤　幸司　【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

・加藤幸司，“世界トップレベル・バドミントンの試合分析―男子ダブルスと混合ダブルスについて―”，慶應義塾大学体育研究所紀要，第61巻第１号；８-14，2022.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，第61巻第１号；15-25，2022.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルライフスキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，第19巻；早期公開，2022.

学会発表等

・加藤幸司，“バドミントンの競技分析―混合ダブルスと女子ダブルス―”，日本バドミントン学会第５回学会大会，大阪体育大学（オンライン開催），2022年３月.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響：大学一年生を対象とした調査から”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）

・日本バドミントン学会監事

当年中の研究教育活動の概要

新型コロナ感染が収束しない中、様々な政治的、経済的思惑が絡み合い東京五輪が開催されたが、その後も続くコロナ禍でBWF（世界バドミントン連盟）は超過密試合日程を設定した。BWFはアスリート・ファーストを唱えながらスポンサー・ファースト、経済第一主義ともとれる試合日程を強行した。以前からBWFの試合カレンダーと選手の試合出場義務に関するレギュレーションに疑問を抱いていたこともあり、国家代表選手の年間試合スケジュールと戦績について戦略的側面から調査研究を継続中である。

奥山　靜代　【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（著書）

・稲見崇孝，奥山靜代，坂井利彰，鳥海崇，永田直也，福士徳文（共著），“新・体育理論（慶應義塾大学通信教育学部テキスト）”，慶應義塾大学出版会，2022.

（執筆）

・奥山靜代，Researcher's Eye“塾生とヨガに親しむ”三田評論“，慶應出版会：99頁，2021年
・奥山靜代 他，三人閑談“体幹を整える”三田評論“，慶應出版会：88-100頁，2021年

学会発表等

・村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山靜代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022. 3. 3

研究助成等

・“大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討　―ポストコロナの情勢を見据えて―（研究分担者：研究代表者 村山光義）”，福沢基金研究補助（共同研究），500,000円
・“体育会部員の安全性及び競技力向上に関する研究”，慶應義塾学事振興資金（共同），（研究分担者：研究代表者 鳥海崇），1,450,000円

坂井　利彰　【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（著書）

・稲見崇孝，奥山靜代，坂井利彰，鳥海崇，永田直也，福士徳文（共著），“新・体育理論（慶應義塾大学通信教育学部テキスト）”，慶應義塾大学出版会，2022.

（論文）

・坂井利彰，渡辺泰行，“補食摂取が大学エリートテニス選手の骨格筋指数の変化に及ぼす事例報告”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61：26-32，2021.

（執筆）

・坂井利彰，“坂井利彰の目、“トップにしか分からない重圧と苦悩”　東京中日新聞，2021年６月

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

・公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団・こどもの体力・基礎運動能力向上事業・世田谷区ジュニアアカデミー（テニス）総合監修

（解説）

・日本放送協会『ウインブルドン2021』，2021年７月
・ジャパンコンソーシアム『東京オリンピックテニス競技』，2021年７月
・日本放送協会『全日本選手権　2021』，2021年11月
・日本放送協会『ATP ツアーファイナル2021』，2021年11月

（役職）

・慶應義塾体育会副理事
・慶應義塾体育会庭球部監督
・横浜慶應チャレンジャー国際テニストーナメント・トーナメントディレクター
・公益財団法人日本テニス協会 常務理事（大会運営本部　本部長）
・公益財団法人日本オリンピック委員会 強化スタッフ（コーチング・マネジメント）
・日清食品有限公司　社外取締役

鳥海　　崇 【准教授】

著書・論文・執筆・報告書

（著書）

・稲見崇孝，奥山靜代，坂井利彰，鳥海崇，永田直也，福士徳文（共著），“新・体育理論（慶應義塾大学通信教育学部テキスト）”，慶應義塾大学出版会，2022.

（執筆）

・鳥海崇，藤本秀樹，“水難事故防止へ水泳動画”，日本教育新聞，2021年６月21日
・鳥海崇，藤本秀樹，“いのちを守る着衣泳を学ぼう”，横浜 YMCA News，2021年７月１日
・鳥海崇，“解説　子どもの水難事故防止”，日本教育新聞，2021年９月20日

学会発表等

・鳥海崇，藤本秀樹，“水難事故水難事故防止を目的とした脱出問題について―男子大学生の水からの脱出可否―”，第11回水難学会学術総会，オンライン，2021年６月13日.
・藤本秀樹，鳥海崇，“コロナをプラスに！メンタルプラクティスによる安全水泳の指導”，第20回学校水泳研究会，オンライン，2021年６月21日.
・Takashi Toriumi，“Japanese University Baseball ranking calculated by Elo Rating Method”，31st European Conference on Operational Research，online，2021/7/14.
・鳥海崇，藤本秀樹，“水難事故防止に必要な水からの脱出能力についての検討”，日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会，オンライン，2021年９月８日.
・Takashi Toriumi，“Research on the Japanese students ability about exiting from the water for drowning prevention”，European College of Sport Science Virtual Congress 2021，online，2021/9/8.
・鳥海崇，藤本秀樹，“男子大学生を対象とした水からの脱出容易度に関する研究～ Water Competence の一項目である脱出問題を対象として～”，日本水泳・水中運動学会 2021年次大会，オンライン，2021年10月24日.
・鳥海崇，藤本秀樹，“水難事故防止に必要な這い上がりに関する男女差について”，2021年度水難学会秋季研究発表会，オンライン，2021年12月18日.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）

・慶應義塾体育会副理事

研究助成等

・“体育会部員の安全性及び競技力向上に関する研究”，2021年度学事振興資金，1450千円.
・“国際交流を通じた SDGs 教育及び一貫教育校へのスポーツ教育”，未来先導基金2021年度公募プログラム，2,000千円.

当年中の研究教育活動の概要

これまで安全水泳教育について研究及び教育を遂行してきたが，安全水泳教育は水難事故防止のみならず津波，台風などの水災害時における避難行動にも資するため，防災教育の一部にも位置付けるようになり，これまで関連のなかった研究者や教育関係者と連携を始めた．

永田　直也 【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

（著書）

・稲見崇孝，奥山靜代，坂井利彰，鳥海崇，永田直也，福士徳文（共著），“新・体育理論（慶應義塾大学通信教育学部テキスト）”，慶應義塾大学出版会，2022.

（論文）

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，早期公開，2022.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61(1)：15-25，2022.

（執筆）

・永田直也，“コミュニケーションのためのヒント”，月刊トレーニング・ジャーナル 2021年９月号（通巻503号），ブックハウス・エイチディ：10-13，2021.

・永田直也，“競争心の心理学”，Basketball Planet Vol.2 競争心を育む：ペイント内での高い決定力を目指して，ベースボールマガジン社：192-199，2021.

学会発表等

・永田直也，山﨑紀春，戸枝美咲，新井健之，竹市勝，“物体の運動予測課題における試行回数の錯覚量変化：性差に着目して”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.

・矢作公佑，奥田邦晴，片岡正教，居村修司，鈴木郁美，許穎栈，一場友実，永田直也“ボッチャ選手に対するビデオ通話アプリを使用したオンライントレーニングの実施報告”，第58回 日本リハビリテーション医学会学術集会，オンライン，2021年６月.

・山﨑紀春，永田直也，戸枝美咲，新井健之，竹市勝，“物体の運動予測課題における錯覚量の性差：大学生を対象として”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響：大学一年生を対象とした調査から”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.

・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.

・村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山靜代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022. 3. 3.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講師）

・“スポーツ心理学”，公益社団法人東京都障害者スポーツ協会主催　令和３年度中級スポーツ指導員養成講習会，東京，2021年10月.

・共通科目Ⅲ集合講習会講師，公益財団法人日本スポーツ協会主催　令和３年度日本スポーツ協会公認コーチ等養成講習会，2021年10月.

（フィールドワーク）
- 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会　スポーツ医・科学・情報サポートスタッフ（心理領域リーダー）.
- 公益財団法人日本バスケットボール協会　技術委員会指導者養成委員会　委員
- 一般社団法人日本ボッチャ協会　2021年強化サポートスタッフ
- バーレーン2021アジアユースパラ競技大会日本選手団スタッフ（心理サポート）

研究助成等
- “大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討：ポストコロナの情勢を見据えて（共同研究者：研究代表者 村山光義)”，2021年度福沢基金（研究補助），500千円

福士　徳文【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書

（著書）
- 稲見崇孝，奥山靜代，坂井利彰，鳥海崇，永田直也，福士徳文（共著），“新・体育理論（慶應義塾大学通信教育学部テキスト)”，慶應義塾大学出版会，2022.

（論文）
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61(1)：15-25，2022.
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，早期公開，2022.
- 松山博明，堀野博幸，須田芳正，福士徳文，松井健，馬込卓弥，辰本頼弘，巽樹理，“ミャンマー連邦共和国サッカートップレベルチーム選手の競技力向上に関する研究―心理的競技能力に着目して―”，追手門学院大学社会学部紀要，第16号：47-55，2022.

学会発表等
- 松山博明，堀野博幸，須田芳正，福士徳文，“ミャンマー連邦共和国サッカートップレベルチーム選手の競技力向上に関する研究―心理的競技能力診断検査に着目して―”，日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学)，2021年９月.
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響―大学１年生を対象とした調査から―”，日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学)，2021年９月.
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.
- 村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山静代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）
- デンソーカップチャレンジサッカー大会実行委員
- 公益社団法人全国大学体育連合総務部委員
- 日本フットボール学会役員（幹事）
- 関東大学サッカー連盟技術委員
- 慶應義塾体育会副理事
- 慶應義塾体育会アドバイザー

（その他）
・関東大学選抜（１，２年）トレーニングキャンプ・コーチ，福島県・Ｊヴィレッジ，2021年５月７日～９日.
・全日本大学選抜候補トレーニングキャンプ・コーチ，千葉県，2021年６月２日～３日，2021年６月９日～10日.
・U-20全日本大学選抜候補トレーニングキャンプ・コーチ，福島県Ｊヴィレッジ，2021年10月８日～９日.

研究助成等
・“海外での指導経験を有する日本人サッカー指導者からみるコーチングについて（研究代表者）”，福澤基金研究補助，1,500,000円
・“大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討　―ポストコロナの情勢を見据えて―（研究分担者：研究代表者 村山光義）”，福澤基金研究補助，500,000円
・“体育会部員の安全性及び競技力向上に関する研究”，慶應義塾学事振興資金（共同），（研究分担者：研究代表者 鳥海崇），1,450,000円
・“東京2020オリンピック・パラリンピック英国サポート【KEIO 2020 project】を通じたKEIOスポーツレガシーの共創（共同研究者：研究代表者 石手靖）”，2021年度未来先導基金，2,876,000円.（2020年度より活動延期）

当年中の研究教育活動の概要
当年は、予てからのテーマであるサッカー選手の競技力向上に関する研究の推進に努めた。

稲見　崇孝　【専任講師】

著書・論文・執筆・報告書
（論文）
・Fukano, M., Nakagawa, K., Inami, T., Higashihara, A., Iizuka, S., Narita, T., Maemichi, T., Yoshimura, A., Yamaguchi, S., Iso, S, “Increase in foot arch asymmetry after full marathon completion.”, Journal of Sports Sciences, 39：2468-2474, 2021.
・Mineta, S., Inami, T., Hoshiba, T., Higashihara, A., Kumai, T., Torii, S., Hirose, N., “Greater knee varus angle and pelvic internal rotation after landing are predictive factors of a non-contact lateral ankle sprain.”, Physical Therapy in Sport, 50：59-64, 2021.
・Yoshimura, A., Sekine, Y., Schleip, R., Furusyo, A., Yamazaki, K., Inami, T., Murayama, M., Hirose, N., “The acute mechanism of the self-massage-induced effects of using a foam roller.”, Journal of Bodywork and Movement Therapies, 27：103-112, 2021.
・Yoshida, Y., Inami, T., Takase, T., “Body composition of collegiate kendo players.”, Journal of Sports Medicine and Physical Fitness, 61：1430-1431, 2021.
・吉田泰将，稲見崇孝，山口翔大，高瀬武志.“大学男子剣道選手における身体組成の特徴 競技レベル，競技歴，練習時間による検討.”，慶應義塾大学体育研究所紀要，Accepted for publication，2021（https://ipe.hc.keio.ac.jp/wp-content/uploads/2021/09/BULLETUIN_IPE2021-1-Yoshida.pdf）.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究 対面授業による体育実技履修有無の比較から.”，大学体育スポーツ学研究，2022（https://daitairen.or.jp/dtr2020/wp-content/uploads/2022/02/dtsgk19_souki6.pdf）.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休校措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響.”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61：15-25，2022.

（執筆）
・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷は慣れる！ Repeated bout effectとは？ Part 1”，Sportsmedicine，237：22-24，2022.
・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷に対する効果的なトリートメントとは？”，Sportsmedicine，236：20-23，2021.
・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷に対する効果的な栄養補助食品とは？”，Sportsmedicine，235：20-22，2021.

・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷（EIMD）と年齢および性差の関係”，Sportsmedicine，234：31-34，2021.
・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷（筋肉痛）の好発部位”，Sportsmedicine，233：31-33，2021.
・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷（筋肉痛）の好発運動”，Sportsmedicine，232：31-33，2021.
・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷が運動へ与える影響”，Sportsmedicine，231：31-33，2021.
・山口翔大，稲見崇孝，神武直彦，“運動誘発性筋損傷（筋肉痛）はどこで起きている？”，Sportsmedicine，230：19-21，2021.

（著書）

・野坂和則［監修］，稲見崇孝［著］，桂良寛［著］，“ゆ〜っくり座って健康に！ 60歳からはじめるエキセントリック体操”，東洋館出版，2022.
上記に付随して以下の関連動画をインターネット上に公開した。
・エキセントリック体操（初級編）：毎日行う 4 つの体操
https://www.youtube.com/watch?v=5L1Sdr8L_kw
・エキセントリック体操（中級編）：基本となる12の体操
https://www.youtube.com/watch?v=0Le5zE52HNE
・エキセントリック体操（上級編）：挑戦したい 9 つの体操
https://www.youtube.com/watch?v=sDzcyKSPmBs
・エキセントリック体操（応用編）：やってみた11の体操
https://www.youtube.com/watch?v=wL_FDuoLyEQ
・稲見崇孝，奥山靜代，坂井利彰，鳥海崇，永田直也，福士徳文（共著），“新・体育理論（慶應義塾大学通信教育学部テキスト）”，慶應義塾大学出版会，2022.

（その他）

・山縣亮太，稲見崇孝，三田評論小特集：東京2020と慶應義塾「東京2020を振り返って」（インタビュアーとして），2021（https://www.mita-hyoron.keio.ac.jp/features/2021/12-10.html）.

学会発表等

・村山光義，野坂和則，稲見崇孝，島典広，米田継武，“上腕屈筋群の伸張性と短縮性運動に伴なう上腕二頭筋硬度変化”，第29回日本運動生理学会，オンライン，2021. 8. 20-21
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響：大学一年生を対象とした調査から”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年 9 月.
・佐藤圭，成田崇矢，山崎英二，田中聡子，藤井信濃，和田順子，大塚ひとみ，深野真子，合阪幸三，稲見崇孝，“妊娠後期と産後 1 ヶ月における Head up と息吹き Draw in の腹直筋間距離の変化”，第36回日本女性医学会学術集会，大阪，2021年11月 6 日.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年 3 月.
・村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山静代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022. 3. 3.
・森戸暁久，平田昂大，山田啓史，下益田正嗣，原本真紀，加藤敬太，田原茂行，稲見崇孝，小熊祐子，石田浩之，神武直彦，“暑熱環境におけるアイススラリー摂取による運動パフォーマンスの改善効果”，日本薬学会第142年会，愛知県（オンライン），2022年 3 月25〜28日.
・山田啓史，森戸暁久，平田昂大，下益田正嗣，加藤敬太，田原茂行，稲見崇孝，神武直彦，“アイススラリー摂取による「睡眠の質」の改善効果”，日本薬学会第142年会，愛知県（オンライン），2022年 3 月25〜28日.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講演）

・稲見崇孝，“東京2020大会事前キャンプ英国サポートを通じた５年間にわたるスポーツボランティア学生の育成”，KEIO スポーツ SDGs シンポジウム オリンピック・パラリンピックレガシーと SDGs，オンライン，2022年３月５日

・稲見崇孝，“野球選手のパフォーマンスとコンディショニングを「見る」”，三田オープンカレッジ「慶應スポーツ最前線―コーチングとデータ活用の融合―」，オンライン，2021年６月５日（https://www.moc.keio.ac.jp/pdf/21106.pdf）.

（フィールドワーク・役職）

・チーム山縣亮太（SEIKO ホールディングス株式会社），スポーツサイエンスアドバイザー

・株式会社マクニカ，スポーツ＆ヘルスサイエンスアドバイザー

・橋本総業ホールディングス，スポーツサイエンスアドバイザー

・慶應義塾体育会アドバイザリーボード（野球部・競走部短距離部門・競走部長距離部門・剣道部・少林寺拳法部・塾高野球部・SFC 高校野球部）

（論文査読）

・Journal of Sports Medicine & Physical Fitness（Italy）

・日本臨床スポーツ医学会誌

研究助成等

・“骨格筋の質的変化に着目したコンディショニング研究（研究代表者）”，共同研究（大正製薬株式会社）.

・“伸張性収縮を強調した自体重トレーニングがサルコペニア患者の健康改善に与える影響（研究代表者）”，2021年度福澤研究基金.

・“運動誘発性筋損傷により生じる筋疲労の定量的評価とその変化（研究代表者）”，2021年度所内研究費.

・“体重を利用した新しいエキセントリックトレーニングが高齢者の身体機能に及ぼす影響（研究分担者：研究代表者 桂良寛）”科学研究費助成金 基盤研究(C)，(21K11473).

・“アスリート向けリカバリープログラムに関する共同研究（共同研究者：研究代表者 システムデザイン・マネジメント研究科 神武直彦）”，共同研究（大正製薬株式会社）.

・“東京2020オリンピック・パラリンピック英国サポート【KEIO 2020 project】を通じた KEIO スポーツレガシーの共創（研究代表者 体育研究所教授 石手靖）”，2021年度慶應義塾未来先導基金.

・“大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討　―ポストコロナの情勢を見据えて―（研究分担者）”，福沢基金研究補助（共同研究）.

当年中の研究教育活動の概要

当該年度におけるフィールドワークとして、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への関わりが２つあった。一つは、これまで５年間育成してきた KEIO 2020 project に所属する約100名を超える塾生が無事に英国代表の事前キャンプサポートをやりきったことである。本特集にもあるように、代表者である石手所長の義塾賞や、内閣府からホスタウン功労者表彰を受賞したことが活動の成功を裏付けている。もう一つは、SEIKO ホールディングスに所属する陸上短距離種目の山縣亮太選手の科学サポートで、６月に鳥取で行われた布施スプリントでの日本新記録９秒95の樹立、３大会連続のオリンピック競技大会出場、日本選手団主将に任命されるなど、チームの一員として同じ時間を過ごせたことは大変光栄であった。研究活動では、特任助教として山口翔大さんを、研究員として金 鉉基さんと吉川亜有美さんを受け入れ、約７ヶ月にわたる実験を完遂することができた。今後は、この活動のアウトプットに集中していきたい。また昨年度に引き続き、研究成果を書籍としてまとめ出版した。昨年度は専門書であったが、当該年度は実用書となっている。

東原　綾子 【助教】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

・Higashihara A., Mendiguchia, J., Ono, T., Nagano, Y., Sasaki, S., Mineta, S., & Hirose, N.（2021）. “Neuromuscular responses of the hamstring and lumbopelvic muscles during unanticipated trunk perturbations”. *Journal of Sports Sciences*, 1-11.

・Hirose N., Tsuruike M., Higashihara A.（2021）. “Biceps Femoris Muscle is Activated by Performing Nordic Hamstrings Exercise at Shallow Knee Flexion Angle”, *Journal of Sports Science and Medicine*, 20(2), 275–283.
・Mineta, S., Inami, T., Hoshiba, T., Higashihara, A., Kumai, T., Torii, S., & Hirose, N.（2021）. “Greater knee varus angle and pelvic internal rotation after landing are predictive factors of a non-contact lateral ankle sprain”. *Physical Therapy in Sport*, 50, 59–64.
・Fukano, M., Nakagawa, K., Inami, T., Higashihara, A., Iizuka, S., Narita, T., Maemichi, T., Yoshimura, A., Yamaguchi, S., Iso, S.（2021）. “Increase in foot arch asymmetry after full marathon completion”. *Journal of Sports Sciences*, 39(21), 2468–2474.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，早期公開，2022.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61(1)：15-25，2022.

学会発表等

・Higashihara A., Mendiguchia, J., Ono, T., Nagano, Y., Sasaki, S., Mineta, S., & Hirose, N. Neuromuscular responses of the hamstring and lumbopelvic muscles during unanticipated trunk perturbations. IOC World Conference on Prevention of Injury & Illness in Sport. Monaco, November 2021.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響：大学一年生を対象とした調査から”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.
・寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.
・村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山静代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（講演）
・東原綾子，“ハムストリングス肉離れ―バイオメカニクス―”，encounter school（株式会社 encounter），ウェビナー講演，2021年９月21日

（役職）
・公益社団法人全国大学連合　将来構想委員会　委員

研究助成等

・“ハムストリングス肉離れ受傷後の中枢神経機構の変化分析”，科学研究費補助金（文部科学省・日本学術振興会），若手研究，（18K17865），474,811円.
・“東京2020オリンピック・パラリンピック英国サポート【KEIO 2020 project】を通じた KEIO スポーツレガシーの共創”（共同研究者：研究代表者 石手靖），2020年度未来先導基金，2,876,000円.（※新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度に繰越）
・“ハムストリングス肉離れ既往者における体幹運動制御特性の解明”学事振興資金（個人研究），300,000円
・“大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討―ポストコロナの情勢を見据えて―（共同研究者：研究代表者 村山光義）”，2021年度福澤基金研究補助，500,000円.

当年中の研究教育活動の概要

教育活動では、感染予防対策を講じた上での体育実技指導に努めた。また、KEIO 2020 project の活動に携わり、英国代表選手団による事前キャンプにおける塾生の主体的な活動の推進に努めた。研究活動では、スポーツ外傷・障害予防を目的とした研究について、これまで取得してきたデータの整理・論文化を行った。また、学会発表や講演によって研究成果の社会還元を行った。

寺岡　英晋　【助教】

著書・論文・執筆・報告書

（論文）

- Eishin Teraoka, and Kirk, D.,“Exploring physical education teachers’ awareness of observed teaching behaviour within pedagogies of affect”, Physical Education and Sport Pedagogy, Advance online publication, 2022.
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，大学体育スポーツ学研究，早期公開，2022.
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍による体育実技の休講措置後の再開が大学一年生の身体活動とライフスキルに与える影響”，慶應義塾大学体育研究所紀要，61(1)：15-25，2022.
- Eishin Teraoka, and Kirk, D.,“Exploring pupils’ and physical education teachers’ views on the contribution of physical education to Health and Wellbeing in the affective domain”, Sport, Education and Society, Advance online publication, 2021.
- Lamb, C. A., Eishin Teraoka, Oliver, K. L., and Kirk, D.“Pupils’ motivational and emotional responses to pedagogies of affect in physical education in Scottish secondary schools”, International Journal of Environmental Research and Public Health, 18(10)：5183, 2021.
- Eishin Teraoka, Ferreira, H. J., Kirk, D., and Bardid, F.,“Affective learning in physical education: a systematic review”, Journal of Teaching in Physical Education, 40(3)：460-473, 2021.

学会発表等

- Eishin Teraoka,“Affective learning in physical education”, 13th International Congress on Sport Science（Keynote Speech）, Online（Tehran, Iran）, March 2022.
- 村山光義，寺岡英晋，永田直也，東原綾子，福士徳文，稲見崇孝，奥山靜代，佐々木玲子，“コロナ禍における大学体育実技の成績評価方法に関する実態調査”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生のメンタルヘルスと社会的スキルに関する調査研究：対面授業による体育実技の履修有無の比較から”，第10回大学体育スポーツ研究フォーラム，オンライン，2022年３月.
- 寺岡英晋，村山光義，佐々木玲子，稲見崇孝，東原綾子，野口和行，加藤幸司，永田直也，福士徳文，“コロナ禍における対面体育実技の実施が身体不活動時間とライフスキルに与える影響：大学一年生を対象とした調査から”，日本体育・スポーツ・健康学会　第71回大会，オンライン（主幹：筑波大学），2021年９月.

講演・講師派遣・フィールドワーク等の研究教育活動および役職

（役職）

- 公益財団法人日本卓球協会　スポーツ医・科学委員会　通信委員
- 公益社団法人全国大学連合　将来構想委員会　委員

研究助成等

- “体育分野における教師の欲求支援行動を引き起こす背景要因（研究代表者）”，科学研究費助成金，若手研究（21K17626），800,000円.
- “大学教養体育実技の目的と評価に関する再検討―ポストコロナの情勢を見据えて―（共同研究者：研究代表者 村山光義）”，2021年度福澤基金研究補助，500,000円.

当年中の研究教育活動の概要

教育活動では、体育実技において通年で対面形式での授業を実施し、スポーツを通じた塾生の実りある学習成果の創出に努めた。また、KEIO 2020 project では、塾生の様々なボランティア活動やおもてなしの企画をサポートした。研究活動では、個人研究および共同研究で取得してきたデータの学会発表と論文投稿に努めた。

２．所内定例研究会発表要旨

第１回　５月11日

東原　綾子

体幹への外乱付与時の骨盤周囲筋の筋活動分析

スポーツ活動時の急激な切りえし返し動作・ストップ動作では選手の予測に反する外乱に対する適切な体幹の運動制御が必要となり、体幹運動制御能力は下肢外傷受傷リスクと密接に関連することが明らかになっている。そこで、ハムストリングス肉離れ受傷既往を有するスポーツ選手の体幹制御運動特性を調査した結果、ハムストリングス肉離れ既往を有する選手は、非予測的な外乱が体幹部に加わった際にこれらの筋の活動開始時間が有意に遅延することを明らかになった。この筋活動開始時間の遅延は、骨盤や体幹部の制御動態に影響を与えることから、ハムストリングス肉離れ受傷後のリハビリテーションにおいては受傷筋のみならず協働筋も含めた包括的な機能回復を目指す必要がある。本発表では、これらの研究成果をもとにハムストリングス肉離れの受傷機転や予防トレーニングの展望について議論した。

第１回　５月11日

佐々木玲子

幼少期におけるリズミカルな動作の発達 ～幼児のホッピング動作特性～

幼少期は神経系の著しい発達を背景に様々な動作を獲得していく時期である。運動のパフォーマンスにおいては，走跳投などに代表されるような全力発揮に基づく最大能力の向上のみならず最大下の力発揮における調整系動作の獲得やスキルの向上もみられる。本報告では移動系の基礎的運動として子どもの日常の遊びの中でもよく見られるホッピング動作を課題として取り上げた。ホッピングについてはこれまでにも観察的な評価を用いて上下肢の動作の変容について報告してきたが，今回は引き続き、跳躍時の時間的要素に着目しその発達的特性について検討を行った。

本研究では４歳から６歳の幼児、男女計161名を対象とした。全対象児について、ホッピング動作をビデオ撮影（30fps）し、上肢、下肢それぞれの動きを先行研究[1)]の評価基準に対照してそれぞれ４段階、および５段階の判定を施し、観察による質的な評価をするとともに、撮影映像からホッピング中の離地，着地時を読み取り，① 跳躍間隔時間（hopping interval），② 滞空時間（flight duration），③ 接地時間（stance duration）を計測した。これらの計測にあたっては、DKH 製、Frane-Dias VIを用いた。各時間要素について，年齢，あるいは動作の質的評価レベル間の比較を行い，動作の発達的特性について検討した。各群間の差の比較には分散分析を用いた。

結果は以下のとおりである。４，５，６歳の年齢間で比較すると、滞空時間のみ年齢差がみられ、年齢に伴って増大し（$p < 0.05$）、跳躍間隔時間および接地時間には有意な差はみられなかった。一方、動作の質的評価レベル間で比較すると、動作レベルが上がるほど、跳躍間隔時間長くなる傾向にあり、跳躍の内訳でみると、レベルが上がるにつれて滞空時間が有意に長くなり、接地時間が短くなるという変化がみられた。これらのことから、４歳から６歳にかけての幼児期は、ホッピング動作の獲得および習熟の初期であり、動作の質が変容する時期であることが推察された。

文献：１）Roberton, MA and Halverson, LE, “The development of locomotor coordination: Longitudinal change and invariance”, J Motor Behavior, 20-3, 197-248, 1988.

第２回　６月15日

稲見　崇孝

高大接続データの活用　野球部によるモデルケースの構築と次なる課題

2018年からの３年の間に多くの体育会各部に協力をいただきデータ取得を行なってきた。その活動の幅は、体育会アドバイザリーボードの設立や公開講座（三田オープンカレッジ）での発信、スポーツ医学研究センターとの共同研究開始、クチコミなどなども手伝って年々拡大しつつある。取り組みの中でも力を入れているのが一貫教育高の強みを生かしたデータ取得のモデル構築で、野球部を事例に高校１年生から大学４年生までの７学年分のアスリートデータ（合計約200名×年４回測定＝年間延800名のデータ蓄積）取得をスタートさせた。現在は他部（剣道部や競走部）へも同様の取り組みを展開させようとしているものの、マンパワーや予算、時間など､これまで考えられていた問題に加えて、データ管理の在り方についても問題が発生している。特にデータを管理していた塾生の卒業と同時にデータの所在が不明になる事例もあった。データの取り扱いの範囲や管理に用いるツールについても具体例を示した。

第３回　７月６日

山内　慶太（慶應義塾常任理事）

今後の体育研究所に期待すること―慶應スポーツとその今日的意義―

山内慶太常任理事をお迎えし､「今後の体育研究所に期待すること―慶應スポーツとその今日的意義―」と題し、ご講演いただいた。はじめに福澤諭吉先生の運動観・教育論、そして、福澤先生の教育論の慶應スポーツへの影響についてご解説頂いた。福澤先生が運動を独立した個人を支える不可欠な一要素として重視したことを継承し、福澤先生亡き後の塾においてその気風をより確かなものにする為に、福澤先生の独立自尊主義をわかりやすく塾生に話し伝えることに心を砕かれたこと、そして、スポーツについてもその文脈で積極的に語るようになったことが、小泉信三らが見出したスポーツの教育的価値に強く影響していることをご解説頂いた。最後に、体育研究所へ期待することとして、以下のお話があった。

１．塾風（科学的精神と個人の独立の尊重）が慶應スポーツの個性を作り、慶應スポーツが塾生に塾風を体感させるものであり、これを確かにし続ける必要がある。
２．社会が慶應スポーツに近付いて来た中で、常に少数論者として慶應スポーツの今日的（将来的）意義を問い続ける。
３．塾生が社会の中核となる時代を視野に模索する。

第４回　10月12日

吉田　泰将

大学男子剣道選手における身体組成の特徴
―競技レベル、競技歴、練習時間による検討―

本研究では体脂肪率やFFMIが剣道歴および練習時間とどういった関係にあるのかを異なる競技レベルにて検証することを目的に研究を行なった。なお、レジスタンストレーニングや持久性トレーニングなど練習時間の多寡がFFMIと関係することはもちろんのこと、本研究では曽賀野ら（2017）の報告から、大学男子剣道選手におけるFFMIの値も長い剣道歴に関係するという仮説を立て検証した。

対象は、日本の関東学生剣道連盟に所属するＸ大学44名（20.3±1.1歳：平均±標準偏差；以下同様）とＹ大学43名（19.7±0.7歳）の大学男子剣道選手とした。両大学の過去３年間の大会戦績を比較すると、関東学生剣道優勝大会において、Ｘ大学はベスト８が２回、ベスト16が１回、Ｙ大学はベスト64が３回という結果であった。さらに、Ｘ大学は全日本学生剣道優勝大会でもベスト８が２回、ベスト16が１回の結果を残しており、Ｙ大学は全

日本学生剣道優勝大会への出場権を獲得していない。このように両大学には競技成績の上では明確な違いがある。なお、測定時期は、両大学ともに例年行われる秋の諸大会終了後の時期にて統一した。

研究の実施に先立ち、慶應義塾大学倫理委員会にて承認を得た（20-011）。被験者に対し事前に研究内容と方法などに関する説明を行い、全ての被験者は研究内容を理解し同意を得た上で研究に参加した。

剣道においてパフォーマンスを構成する要素の身体組成データである体脂肪率ならびにFFMIと練習時間や剣道歴との間の関係を、異なる競技レベルの大学男子剣道選手を対象に測定を行なった。その結果、相関関係は認められず、体脂肪率やFFMIは剣道歴に関係しない、仮説を支持しなかった。大学男子剣道選手における体脂肪率やFFMIは、これまでの剣道歴ではなく、現在行なっている練習・トレーニングの影響をより受けることを示唆しており、剣道歴の短い選手にとっては朗報である。

本研究のような大学生のデータはもちろん、将来的には児童や高齢者、女性などを含めた科学的なデータとその解析結果を蓄積し、世界に教師データを発信し続けることで、日本が世界剣道をリードすることへと繋がっていくものと思われる。また、持続的かつ縦断的なさらなるデータの発信は、大学卒業後や若い世代における健康維持増進手段の一つとして稽古を提案する新たな手立てになると考えられる。

第5回　11月9日

永田　直也

パラアスリートの心理的特徴について

競技における選手の心理的特徴を検討する中では、心理的スキルという概念が用いられる。これは、競技に必要な心理的側面は強化可能なスキルであり、リラクセーショントレーニングやイメージトレーニングなどが強化に有効な技法であるという知見に基づいている。心理的スキルの高さを測定する尺度としては、心理的競技能力診断検査（DIPCA.3）があり、これまで多くの選手を対象に実施されてきた。一方で、東京パラリンピックの開催で注目を浴びているパラアスリートの心理的スキルについては、十分な資料があるとは言えず、科学的サポートを実施する上での課題となっていた。特にパラアスリートは、障害の違いによって特徴が異なると考えられ、サポートにはその理解が必須である。今研究会では、発表者が一部の期間を調査代表者として実施してきたパラアスリートに対する調査結果を報告した。

参加者からは、健常ハイパフォーマンスアスリートとの関係性について、測定値と強化法についての質問があった。今回の発表でいただいた新たに検討する項目を加え、今後も調査を進めていく。

第6回　12月7日

鳥海　崇

水難事故防止に必要な水からの脱出能力についての検討

水難事故の発生要因の一つとして脱出問題が挙げられる。これは水難事故を防止するために必要な15の能力（Water Competence）の中の1つでもあるが、その能力に必要な要素については明らかになっておらず、十分な泳力を有している者でも脱出時に困難が生じることが報告されている。そこで本研究では救命胴衣利用の有無が水からの脱出に与える影響について明らかにすることを目的とした。調査は一般男子大学生40名を対象に、水着状態及び救命胴衣着用状態で、プールからの脱出可否とその容易度について測定を実施した。得られた結果から、水着状態に比べ救命胴衣着用状態の方が脱出容易度は優位に低くなった。また、女性は男性に比べて脱出容易

度が優位に低くなった。本研究の結果から、脱出問題を考える上では救命胴衣を利用しない方が脱出可能性は高くなることが示唆された。しかしながら救命胴衣は水難事故防止には極めて重要と考えられているため、今後は救命胴衣の形状と脱出可能性について調査する必要があることを報告した。

第６回　12月７日

寺岡　英晋

小中学校における卓球授業の普及に向けた取り組みについて

本発表では、小中学校における卓球授業の普及に向けた取り組みについて発表者が現在考えていること、関係各所にヒアリングをして学んだこと、今後の課題や方向性について情報共有を行なった。まず、この取り組みの最終目標としては小学校学習指導要領への「卓球」の採用であることを前提に置き、そのためのロードマップを示した。そこでは、2030年施行の新学習指導要領への例示掲載を目指すために、2024年の中央審議会諮問が始まるまでに卓球の例示掲載について審議してもらうための資料を提出する必要があることを示した。また、その資料作りのために、日本フラッグフットボール協会の取り組みが参考になることを紹介した。例えば、全国の児童たちのメッセージなどフラッグフットボールが学校体育に必要であることを説明するための資料収集が重要であることを述べた。次に、現職教員のインタビューから、卓球授業の実態として、用具や教材がないこと、運動時間の確保が難しいこと、そもそも教えるのが難しいことが課題として挙げられた。それらを踏まえ、今後の方向性としては、（１）すでに規定されている卓球競技の用具やルールを学校教育用に修正すること、（２）体育が専門でない先生でも効果的な授業をすぐに実践できる単元計画案を作成すること、（３）検証授業を積み重ねることを提案した。まとめとしては、あくまで「学校体育教材の普及」を目的にした取り組みが必要であることを示した。

第７回　１月11日

長谷部　貴（日本パラスポーツ協会）

COVID-19が与えたパラスポーツ全体の強化活動への影響

長谷部貴氏をお迎えし、COVID-19が与えたパラスポーツ全体の強化活動への影響についてご講演いただいた。東京2020大会は、COVID-19の感染拡大によって、史上初めて開催が延期された。これは、大会自体の延期のみならず、それにかかる強化活動の延期も意味する。選手を始めとした競技関係者にとって非常に大きな影響を与えたが、この詳細についてメディア等で触れられることは少なかった。本ご講演では、その影響についてお話しいただき、強化活動を進める難しさについて見識を深めた。

3．浅野基金・学事振興基金報告書

① 浅野均一記念研究奨励金

研 究 課 題

体育会部員の安全性及び競技力向上に関する研究

研究代表者　須田芳正

補　助　額　300,000円

慶應義塾大学体育研究所では2021年度よりスポーツサイエンス構想という名目で、体育会及びスポーツ医学研究センター、そして他キャンパスに所属するスポーツに関する研究・教育を行う教員・学生を有機的に結びつけ、慶應義塾におけるスポーツの研究・教育の中心となるべく環境を整えることとなった。体育研究所からは、本年度より体育会アドバイザリーボード４名が体育会部員に対して科学的な知見からサポートすることとなった。具体的なサポート分野は以下の通りである。

① 女子部員へのサポート

スポーツサイエンス構想では「女性」もキーワードに含めている。主に女子部員を対象として、月経やホルモンの仕組み、無月経や月経異常など、女性アスリートとしての基礎知識についての講演会を開催し、実態調査の準備を進めた。新型コロナウイルスの影響により、対面では実施できなかったため、基礎データの入手は来年度の課題となる。

② スポーツ心理分野からのサポート

個人種目の体育会部員（水泳部競泳部門）の心理状態の変化を継続的に調査し、競技パフォーマンスとの関連を調べ、競技力向上のための基礎資料とした。心理サポートやそのデータの取得に際しては、被験者との信頼関係が必要であり、その情報が監督やスタッフに伝わることで選手選考などに影響を与えかねない。これらのことから心理状態のデータ取得には時間がかかる反面、新型コロナウイルスの感染状況と大会スケジュールの関係などから、継続的なデータ入手に関しては現在計画も含めて調整中である。

③ 運動生理・バイオメカニクス分野からのサポート

体育会部員（野球部及び剣道部）の体組成及び瞬発力を継続的に調査し、そのシーズン中の変化を調べ、競技パフォーマンスとの関連について調査を計画した。これまで実施していた野球部と剣道部に対するサポートから科学的知見を生み出し、研究結果に結びつけることができている。現在他の競技からもサポートの依頼があるため、今後は人員も含め資源を投下することでよりよい科学サポートができると考えられる。

④ コーチング分野からのサポート

体育会部員を対象として、体力測定の名目で瞬発力の測定を実施した。新たに導入した専用の測定機器について、その立ち上げや運用を終え、実際に測定をする段階で新型コロナウイルスの影響により測定計画に支障が出た。本分野のサポートとしては、体力測定という測定内容からもシーズン初期からの実施が望ましいため、本年度は数多くの部には実施することができなかった。今後の新型コロナウイルスの感染状況と大会スケジュールの関係などから、継続的なデータ入手に関しては現在計画も含めて調整中である。

大きく４つの分野についてサポートを実施したが、体育会各部の人員も毎年入れ替わるため、各部へのサポート体制の周知が肝心と考えられる。各部への周知を通じて、より多くの部や部員にサポートを受けてもらい、競技力を向上させる一方、そこから得られるデータを活用して科学的知見を蓄積していくことで、スポーツサイエンス構想とその中心となる体育研究所の存在感が増してくるものと考えられる。

② 学事振興資金

研 究 課 題

体育会部員の安全性及び競技力向上に関する研究

研究代表者　鳥海　崇

研究分担者　須田芳正　坂井利彰
奥山静代　永田直也
稲見崇孝　福士徳文
石手　靖　山内　賢
吉田泰将　加藤幸司

補　助　額　1,450,000円

慶應義塾大学体育研究所では2021年度よりスポーツサイエンス構想という名目で、体育会及びスポーツ医学研究センター、そして他キャンパスに所属するスポーツに関する研究・教育を行う教員・学生を有機的に結びつけ、慶應義塾におけるスポーツの研究・教育の中心となるべく環境を整えることとなった。そこで本研究では、体育研究所に所属する教員でスポーツサイエンス構想の中核となるグループを構成し、体育会部員の安全性向上（マウスガード利用の実態調査）及び競技力向上（体組成及び心理測定を通じた競技力のシーズン変化）の研究推進を目的とした。

研究内容を大きく二つに分けた。一つは体育会部員のマウスガード利用の実態調査である。口腔部周辺における受傷防止を目的としたマウスガードの利用が、体育会部員に対してどの程度浸透しているかについて、競技別に調査を計画した。二つ目は体育会部員の競技力向上の研究である。体育会部員（野球部及び剣道部）の体組成及び 瞬発力を継続的に調査し、そのシーズン中の変化を調べ、競技パフォーマンスとの関連について調査を計画した。また同様に、個人種目の体育会部員（水泳部競泳部門）の心理状態の変化を継続的に調査し、競技パフォーマンスとの関連を調べ、競技力向上のための基礎資料とした。

体育会部員の安全性向上は、大学スポーツの最重要課題である。対象競技数が多く、高い競技力の選手を有する慶應義塾体育会を対象とした本調査は、他大学の安全性向上に資する基礎的データとなる。体育会部員の競技力向上に関しては、各競技部の指導スタッフが日々指導しているが、体組成や瞬発力、心理状態の変化は、測定に設備や技術が必要となるため、主に国際大会に出場するようなトップレベルの選手のみを対象に調査研究が進められてきた。しかしながら今回、対象を大学生に広げることで、これらの変化と学生生活との関連等について明らかにし、我が国における大学スポーツの質の向上に繋がるものと考えられる。今年度においてはこれらの測定機器の購入とその試験データの取得が可能となり、実際にいくつか競技においてはデータの測定を完了したものもあるが、多くは実際の測定の段階においては新型コロナウイルス感染防止を目的とした活動制限期間や外部者との接触禁止期間もあり、現状では学期末試験終了後の測定を計画している。

また、スポーツサイエンス構想では「女性」もキーワードに含めている。今後は主に女子部員を対象として、月経やホルモンの仕組み、無月経や月経異常など、女性アスリートとしての基礎知識についての実態調査を進めるため、現在倫理審査の準備中である。

研 究 課 題

ハムストリングス肉離れ既往者における体幹運動制御特性の解明

研究代表者　東原綾子

補　助　額　300,000円

ハムストリングスは大腿後面に存在し、股関節の伸展、膝関節の屈曲において重要な役割を担う筋群である。この筋群に多く発生するスポーツ外傷であるハムストリングス肉離れはスポーツ競技を問わず発生率が高い外傷である。スポーツ活動時の急激な切りえし返し動作・ストップ動作では選手の予測に反する外乱に対する適切な体幹の運動制御が必要

となり、体幹運動制御能力はハムストリングス肉離れ受傷と密接に関連することが明らかになっている。本研究では、ハムストリングス肉離れ受傷既往を有するスポーツ選手の体幹制御運動特性を明らかにし、受傷後のトレーニング関する提言を得ることを目的とした。

下肢の既往歴を有さない男性スポーツ選手10名（健常群）、ハムストリングス肉離れ受傷既往を有する男性スポーツ選手11名（既往群）を対象とし、胸郭後面における後方牽引を予測下・非予測下で解除することにより体幹部に前方方向の外乱を与えた。その際の体幹加速度、体幹前傾・骨盤前傾・股関節屈曲・膝屈曲角度、および大腿二頭筋・半腱様筋・大殿筋・脊柱起立筋・内腹斜筋の筋活動潜時および外乱付与後の筋活動量を算出し、これらのパラメータについて、外乱予測条件、または非予測条件における差異を両群で比較した。両群ともに非予測条件下における体幹加速度および体幹前傾変位量が予測条件下と比較して有意高かった ($p < 0.05$)。既往群において、大殿筋と脊柱起立筋の筋活動開始時間が有意に遅延していた。外乱付与後の筋活動量については両群ともに条件による有意な差は認められなかった。

本結果より、ハムストリングス肉離れ既往を有する選手は、非予測的な外乱が体幹部に加わった際に、体幹・骨盤制御に関わる筋の活動開始時間が有意に遅延することを明らかになった。この筋活動開始時間の遅延は、骨盤や体幹部の制御動態に影響を与える可能性が高いことから、ハムストリングス肉離れ受傷後のリハビリテーションにおいては受傷筋のみならず協働筋も含めた包括的な機能回復を目指す必要があることが示唆された。

本研究課題に関する発表

Higashihara A., Mendiguchia, J., Ono, T., Nagano, Y., Sasaki, S., Mineta, S., & Hirose, N.（2021）. Neuromuscular responses of the hamstring and lumbopelvic muscles during unanticipated trunk perturbations. *Journal of Sports Sciences*, 1–11. doi: 10.1080/02640414.2021.1996986.

Ⅲ．教育活動記録

Ⅲ－１．授業の実施（教育委員会）

2021年度の体育科目全体の履修者数は5888名となった。前年（2020年度）との比較では2415名の増加で、前々年（2019年度）との比較では431名の増加となった。以下に詳細な履修者統計と授業評価の結果を示し、本年度教育活動の報告と次年度に向けた課題を挙げる。

１．2021年度体育科目履修者統計

１）体育学講義と体育学演習

2021年度は、体育学講義Ⅰが４コマ（対前年１コマ減）、体育学講義Ⅱが５コマ（対前年１コマ増）、体育学演習１コマ（同比同数）を開講した。体育学講義のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-1に、体育学演習のタイトル及び履修者数を表Ⅲ-1-2に示す。履修者の合計は、体育学講義で264名（対前年比35%）、体育学演習で13名（対前年比93%）であった。体育学講義の履修者数は前年と比べて半数以上減少した結果となった。各科目の授業形態と履修者数の関係に着目してみると、前年に引き続き本年度もオンラインでの実施となった科目の履修者数は前年と比べて同等であった一方で、本年度に対面形式で実施した科目での履修者数の減少が顕著であった。これは、体育学講義の履修を希望する塾生の多くがオンラインでの実施を望んでいたことに起因している可能性が考えられる。現在もオンラインベースの活動が長期化している情勢を踏まえ、多くの塾生に体育・スポーツ科学に関わる学習の機会を提供するために、塾生のニーズに合わせた授業形態及び内容の検討が必要である。同時に、引き続き適切な定員の設定、開講科目の整理、開催曜日・時限の検討が求められる。

表Ⅲ-1-1．2021年度　体育学講義の担当者及び履修状況

授　業　名	科　　目　　名	担　当　者	履修者数
体育学講義Ⅰ	スポーツ統計学の基礎	鳥海　　崇	18
	スポーツコーチング概論（理論）	坂井　利彰	9
	パフォーマンス心理学	永田　直也	118
	メガスポーツ・イベント論	石手　　靖、稲見　崇孝、永田　直也、村松　　憲、村山　光義	21
体育学講義Ⅱ	健康とスポーツの科学	山内　　賢、有馬ふじ代、井ノ口美香子、武田　彩乃、三戸　麻子、横山　裕一	8
	スポーツコーチング概論（実践）	坂井　利彰	11
	スポーツ進化論	村山　光義、永田　直也	19
	ハイパフォーマンスとトレーニング科学	稲見　崇孝	52
	スポーツコーチングとリスペクト教育	山内　　賢	8
合　　計			264

表Ⅲ-1-2．2021年度　体育学演習の担当者及び履修状況

科　　目　　名	担　当　者	定　員	一　次申告者数	倍　率	最　終履修者数	充足率
BLS（ベーシックライフサポート）演習	山内　　賢	20	7	0.35	13	65%

2）体育実技 A・B

表Ⅲ-1-3に体育実技 A（ウィークリースポーツクラス）の担当者とそれぞれの種目、表Ⅲ-1-4に体育実技 A（ウィークリースポーツクラス）の種目別履修状況を示す。日吉・三田合計で12328名の一次申告（対前年比380%；対前々年比 224%）があり、最終的に5611名の履修者（対前年比 208%；対前々年比 126%）となった。また、本年度は対面形式の授業に参加できない塾生への対応として、ヨガのオンライン授業を 4 コマ開講した。オンライン授業の最終履修者数は85名であった。オンライン授業を除く体育実技科目における定員に対する充足率は全体で 78.9% となり、前年より 10.9% の増加、前々年より 24.1% の増加となった。本年度の一次申告者数が定員数を大幅に超過し、倍率が1.73倍になった一方で、最終履修者数は定員を下回る結果となった。これは、一次申告時に定員に達した科目は自動的に抽選が行われ、履修調整が行われた後に履修登録者がその科目を削除したことによる欠員の追加募集がシステム上できなかったことが大きく影響している。体育実技の履修を希望する塾生に対し、ひとりでも多くの塾生が履修できるような履修手続きの見直しと改善が求められる。

表Ⅲ-1-3．2021年度　体育実技A（ウィークリースポーツクラス）担当者及び担当種目

	担　当　者	種　　目
教　　授	佐々木玲子	エアロビクス
〃	石手　　靖	バレーボール
〃	村山　光義	バレーボール，フライングディスク，レクリエーショナルスポーツ
〃	加藤　大仁	バスケットボール
〃	村松　　憲	テニス
〃	山内　　賢	フィットネストレーニング，スマートウォーキング
〃	須田　芳正	（海外研修中）
〃	野口　和行	バレーボール，レクリエーショナルスポーツ，バックカントリースキル（バックパッキング，カヤック）
准　教　授	吉田　泰将	剣道
〃	板垣　悦子	ボディコンディショニング（ピラティス）
〃	加藤　幸司	バドミントン
〃	奥山　靜代	ボディコンディショニング（エアロビクス＆ヨガ），ボディコンディショニング（ヨガ・オンライン）
〃	坂井　利彰	テニス
専任講師	鳥海　　崇	水泳，水球
〃	永田　直也	バスケットボール
〃	福士　徳文	フットサル
〃	稲見　崇孝	フィットネストレーニング
助教（有期）	東原　綾子	ソフトボール
〃	寺岡　英晋	卓球
非常勤講師	秋山　幸廣	軟式野球
〃	朝飛　　大	柔道
〃	浅海　友峰	サッカー
〃	五十嵐　元	バレーボール

	担　当　者	種　　目
非常勤講師	梅本　雅之	水泳
〃	小幡　典子	アーチェリー
〃	勝又　正浩	ゴルフ
〃	金指みの利	バレエエクササイズ
〃	木塚　孝幸	バスケットボール
〃	木林　弥生	卓球
〃	久保田正美	空手
〃	河乃　建仁	気功
〃	小松　鮎実	バドミントン
〃	櫻井　　友	サッカー
〃	澤田　　聡	フェンシング
〃	四戸　紀秀	フットサル
〃	島田桂太郎	ボクシング
〃	首藤　聡史	器械体操
〃	杉本　亮子	ボディコンディショニング（ヨガ＆ピラティス）
〃	鷲見　全弘	水泳
〃	高木　聡子	太極拳
〃	髙橋　一真	フットサル
〃	髙橋　伸子	卓球
〃	竹村りょうこ	テニス
〃	常行かおり	卓球
〃	寺田　好秀	テニス
〃	藤平　信一	合氣道
〃	鳥屋　智大	テニス
〃	西村　　忍	フィットネストレーニング
〃	原　荘太郎	テニス
〃	樋口　裕輔	水泳
〃	日髙　慶太	サッカー
〃	布川友紀子	ゴルフ
〃	細野　雅歳	バレーボール
〃	宮本　千晶	テニス
〃	棟朝　銀河	トランポリン
〃	矢作　拓也	バレーボール
〃	吉宇田和泉	エアロビクス
〃	吉田　英雄	自動車

表Ⅲ-1-4．2021年度　体育実技Ａ（ウィークリースポーツクラス）種目別履修状況

地区	科　目　名	定　員	一次申告者数	倍　率	最終履修者数	充足率
オンライン	ボディコンディショニング（ヨガ）	400	60	0.15	85	21%
日吉地区	アーチェリー	80	180	2.25	67	84%
	合氣道	60	23	0.38	34	57%
	エアロビクス	120	260	2.17	104	87%
	空手	56	22	0.39	35	63%
	器械体操	15	21	1.40	14	93%
	気功	120	150	1.25	107	89%
	剣道	160	32	0.20	70	44%
	ゴルフ	252	695	2.76	203	81%
	サッカー	480	737	1.54	385	80%
	自動車	120	290	2.42	105	88%
	柔道	120	27	0.23	37	31%
	水泳	440	231	0.53	298	68%
	スマートウォーキング	40	31	0.78	37	93%
	ソフトボール	192	264	1.38	177	92%
	太極拳	80	39	0.49	55	69%
	卓球	288	715	2.48	232	81%
	テニス	560	993	1.77	441	79%
	トランポリン	40	221	5.53	27	68%
	軟式野球	60	69	1.15	53	88%
	ハンドボール	120	87	0.73	96	80%
	バスケットボール	672	1107	1.65	554	82%
	バックカントリースキル	28	15	0.54	17	61%
	バドミントン	240	1263	5.26	180	75%
	バレーボール	980	1895	1.93	822	84%
	バレエエクササイズ	60	87	1.45	49	82%
	フィットネストレーニング	288	555	1.93	249	86%
	フェンシング	60	47	0.78	52	87%
	フットサル	600	890	1.48	484	81%
	フライングディスク	50	93	1.86	40	80%
	ボクシング	160	210	1.31	184	115%
	ボディコンディショニング（エアロビクス＆ヨガ）	40	153	3.83	32	80%
	ボディコンディショニング（ピラティス）	40	182	4.55	32	80%
	ボディコンディショニング（ヨガ＆ピラティス）	48	207	4.31	40	83%
	レクリエーショナルスポーツ	140	270	1.93	116	83%
	日　吉　合　計	6809	12061	1.77	5428	79.7%
三田地区	テニス	80	90	1.13	63	79%
	剣道	40	6	0.15	8	20%
	合氣道	60	20	0.33	21	35%
	ボディコンディショニング（ヨガ）	60	63	1.05	41	68%
	ボディコンディショニング（ピラティス）	60	88	1.47	50	83%
	三　田　合　計	300	267	0.89	183	61.0%
	全　体　合　計	7109	12328	1.73	5611	78.9%

表Ⅲ-1-5に体育実技Ｂ（シーズンスポーツクラス）の担当者及び履修状況を示す。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって宿泊を伴う授業形態の実施が制限される中、授業実施の計画を見直し、本年度は４種目（前年比＋３コマ；前々年比－３コマ）を開講した。履修者数は98名（対前年比316%；対前々年比76%）で、充足率は78.4%（対前年0.9%増；対前々年22.3%増）になった。コロナ禍による活動制限が長期化する中、前年よりも多くの塾生が体育実技Ｂに参加し、仲間と交流する機会を提供できたことは非常に意義のあることだったと考えられる。

表Ⅲ-1-5．2021年度　体育実技Ｂ（シーズンスポーツクラス）担当者及び履修状況

月	科　目　名	担当者	定　員	一　次 申告者数	倍　率	最　終 履修者数	充足率
7月	マリンスポーツアクティビティ	鷲見　全弘	25	54	2.16	19	76.0%
	ビーチバレー	石手　　靖	30	45	1.50	26	86.7%
9月	アウトドアレクリエーション	野口　和行	40	46	1.15	32	80.0%
2月	スケート	小山　　正	30	95	3.17	21	70.0%
計			125	240	1.92	98	78.4%

２．授業評価の実施

体育研究所では、体育実技を履修した学生による授業評価を長年継続的に実施し、より適切な授業展開のための基礎資料を得て、授業改善に取り組んでいる。専任教員に加え、非常勤講師（ウィークリースポーツ）においても2011年度秋学期よりweb方式によるアンケートの回収を継続している。

アンケート実施に際しては、授業終了６週間前より入力可能として、回答人数を把握することにより、未実施者に対しては残りの授業で実施を促した。

以下、集計を行った。表Ⅲ-1-6はアンケート回答者数、表Ⅲ-1-7、8にはアンケート調査用紙の質問項目を示した。アンケートの各質問項目には「強くそう思う」（５点）、「そう思う」（４点）、「どちらとも言えない」（３点）、「そうは思わない」（２点）、「全くそう思わない」（１点）の５段階で回答させ、得点化して評価した。2020年度は授業のオンデマンド化により学生による授業連絡の確認が慣習化したこと、そして、各教員によるアンケート周知努力により回答数が飛躍的に伸びたが、2021年度においても2020年度に引き続き高い回答数を維持した。

表Ⅲ-1-6．授業評価アンケート回答者数

	アンケート総数
春学期ウィークリー	1297
秋学期ウィークリー	925
春学期講義・演習	96
秋学期講義・演習	29
シーズン	8

表Ⅲ-1-7．授業評価アンケート質問項目（講義・演習・実技）

履修者全員（講義・演習・実技）回答	
設問 1	曜日時限を選択してください
設問 2	実施地区を選択してください
設問 3	自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した
設問 4	教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した
設問 5	教員の指導・教授方法は適切であった
設問 6	教員はこの授業についての十分な知識を持っていた
設問 7	教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した
設問 8	教員の話し方は聞き取りやすかった
設問 9	この授業は塾生にとってふさわしいものだった
設問10	この授業は自分にとって満足出来るものであった
設問11	この授業によって知識を深めることができた
設問12	この授業の目的・ねらいを十分理解できた
設問13	この授業の内容は興味のあるものだった
設問14	このクラスの雰囲気は良好であった
設問15	自分はこの授業に意欲的に取り組んだ
実技履修者のみ回答	
設問16	この授業は健康や体力の向上に役立った
設問17	この授業によって運動技術が向上した
設問18	運動量は適切であった
講義・演習履修者のみ回答	
設問19	配布資料やプレゼンテーションが適切であった
自由記述	
設問20	この授業を履修した理由・動機について記入してください
設問21	授業内容について記入してください（良かった事）
設問22	授業内容について記入してください（改善を要求することなど）
設問23	担当教員について記入してください（良かった事）
設問24	担当教員について記入してください（改善を要求することなど）
設問25	施設および機器・用具等について記入してください（良かった事）
設問26	施設および機器・用具等について記入してください（改善を要求することなど）
設問27	体育科目全般に関する意見および提案について記入してください

表Ⅲ-1-8．授業評価アンケート質問項目（シーズンスポーツ）

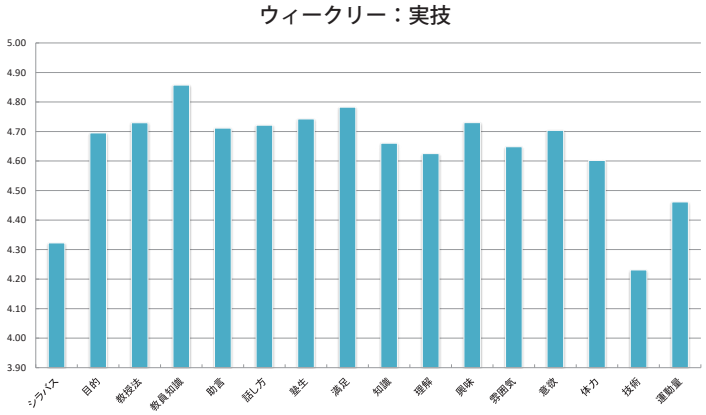
選択肢からの回答	
設問 1	自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した
設問 2	教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した
設問 3	教員の指導・教授方法は適切であった
設問 4	教員はこの授業についての十分な知識を持っていた
設問 5	教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した
設問 6	教員の話し方は聞き取りやすかった
設問 7	この授業は塾生にとってふさわしいものだった
設問 8	この授業は自分にとって満足出来るものであった
設問 9	この授業によって知識を深めることができた
設問10	この授業の目的・ねらいを十分理解できた
設問11	この授業の内容は興味のあるものだった
設問12	このクラスの雰囲気は良好であった
設問13	自分はこの授業に意欲的に取り組んだ
設問14	この授業は健康や体力の向上に役立った
設問15	この授業によって運動技術が向上した
設問16	運動量は適切であった
自由記述	
設問17	この授業を履修した理由・動機について記入してください
設問18	授業内容について記入してください（良かった事）
設問19	授業内容について記入してください（改善を要求することなど）
設問20	担当教員について記入してください（良かった事）
設問21	担当教員について記入してください（改善を要求することなど）
設問22	施設および機器・用具等について記入してください（良かった事）
設問23	施設および機器・用具等について記入してください（改善を要求することなど）
設問24	体育科目全般に関する意見および提案について記入してください

1）体育実技ウィークリー種目の授業評価

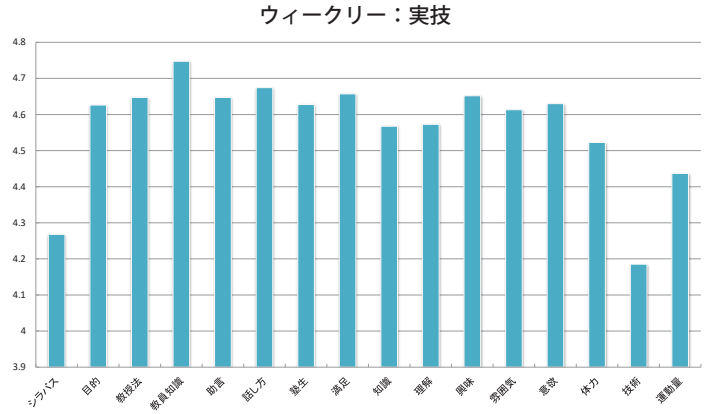
体育実技ウィークリー種目における質問項目別５段階評価（平均値±標準偏差）を図Ⅲ-1-1および図Ⅲ-1-2に示した。表Ⅲ-1-9および表Ⅲ-1-10には種目別の５段階評価を示した。結果をみると、以下のようにまとめられる。

春・秋の学期間に差はほぼなく、同じ傾向が得られている。全般に４点以上の肯定的評価が多かった。平均値で最も高い評価となった項目は、「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」（春：4.86±0.28、秋：4.84±0.19）であり、「教員の指導・教授方法は適切であった」（春：4.73±0.14、秋：4.74±0.20)、「この授業の内容は興味のあるものだった」（春：4.73±0.14、秋：4.74±0.20)、「この授業は塾生にとってふさわしいものだった」（春：4.74±0.11、秋：4.70±0.15）等教員に対する評価に加え、「満足度」（春：4.78±0.15、秋：4.73±0.19）も高い値を示した。

一方、最も平均点が低いものは「自分はシラバスの内容に関心を持ち、この授業を履修した」であった（春：4.32±0.2、秋：4.40±0.24)。このことは、曜日や時限による制約から単に時間割を埋めるために履修したり、第１希望の種目に抽選漏れした学生が他の種目を履修していたことが考えられる。また、「この授業によって運動技術が向上した」についても平均点が低く（春：4.23±0.17、秋：4.27±0.25)、限られた授業時間の中でも技術習得を実感できるような工夫が必要であり、今後の課題である。



図Ⅲ-1-1．授業に関する質問項目別の５段階評価（春学期実技ウィークリー全体平均）



図Ⅲ-1-2．授業に関する質問項目別の５段階評価（秋学期実技ウィークリー全体平均）

表Ⅲ-1-9．種目別の5段階評価集計一覧（春学期ウィークリー）

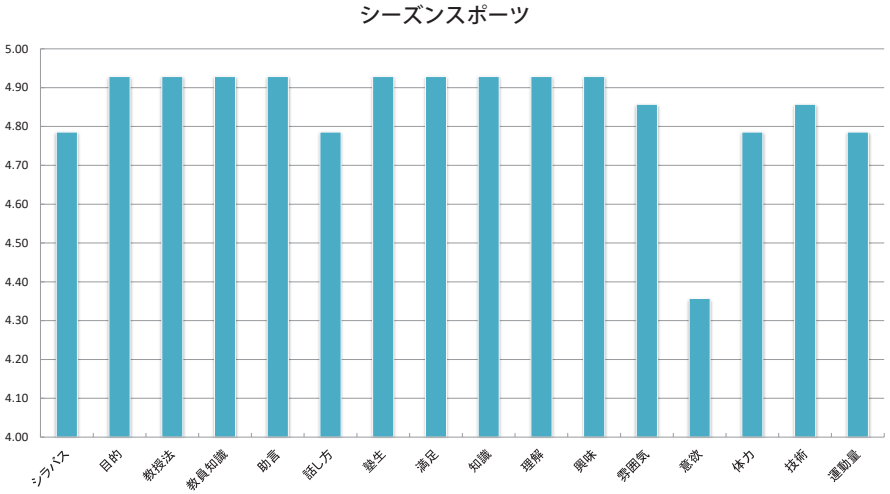
種目名	回答数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アーチェリー	11	平均	4.36	4.82	4.64	4.73	4.73	4.82	4.82	4.82	4.82	4.64	4.82	4.73	4.91	4.00	3.82	4.00
		標準偏差	0.77	0.39	0.64	0.86	0.45	0.39	0.39	0.39	0.39	0.48	0.39	0.62	0.29	0.95	0.83	0.74
エアロビクス	29	平均	4.41	4.93	4.90	4.93	4.90	4.90	4.86	4.93	4.69	4.79	4.76	4.59	4.83	4.79	4.24	4.55
		標準偏差	0.56	0.25	0.30	0.25	0.30	0.30	0.34	0.25	0.53	0.41	0.43	0.67	0.38	0.41	0.73	0.67
エアロビクス＆ヨガ	9	平均	4.67	4.67	4.67	4.78	4.67	4.89	4.67	4.78	4.78	4.56	4.67	4.67	4.67	4.44	3.56	4.44
		標準偏差	0.47	0.47	0.47	0.42	0.47	0.31	0.47	0.42	0.42	0.50	0.47	0.47	0.47	0.50	0.83	0.50
ゴルフ	30	平均	4.07	4.53	4.60	4.97	4.47	4.87	4.67	4.70	4.60	4.47	4.83	4.67	4.63	4.37	4.60	4.53
		標準偏差	0.96	0.56	0.49	0.18	0.67	0.34	0.54	0.46	0.49	0.56	0.37	0.54	0.55	0.80	0.80	0.76
サッカー	55	平均	4.09	4.41	4.48	4.70	4.46	4.67	4.63	4.67	4.30	4.41	4.70	4.57	4.46	4.76	4.43	4.48
		標準偏差	0.84	0.59	0.57	0.50	0.71	0.47	0.48	0.54	0.83	0.76	0.46	0.63	0.74	0.47	0.66	0.66
スマートウォーキング	7	平均	4.43	4.86	4.71	5.00	4.29	4.29	4.57	4.86	4.71	4.57	4.71	4.29	4.57	4.86	4.14	4.57
		標準偏差	0.49	0.35	0.45	0.00	0.45	0.70	0.73	0.35	0.45	0.49	0.45	0.70	0.49	0.35	0.99	0.49
ソフトボール	59	平均	4.36	4.68	4.78	4.83	4.83	4.83	4.80	4.80	4.78	4.68	4.83	4.73	4.80	4.64	4.39	4.68
		標準偏差	0.75	0.47	0.41	0.38	0.38	0.42	0.40	0.40	0.45	0.50	0.38	0.44	0.44	0.55	0.74	0.50
テニス	125	平均	4.30	4.64	4.74	4.89	4.73	4.78	4.77	4.80	4.56	4.56	4.78	4.81	4.78	4.67	4.53	4.58
		標準偏差	0.83	0.64	0.53	0.31	0.50	0.47	0.46	0.42	0.68	0.68	0.45	0.39	0.47	0.51	0.64	0.59
トランポリン	8	平均	4.38	4.63	4.75	5.00	4.75	4.50	4.75	4.50	4.63	4.38	4.75	4.38	4.50	4.63	4.38	4.50
		標準偏差	0.48	0.48	0.43	0.00	0.43	1.00	0.43	0.71	0.48	0.48	0.43	0.48	0.50	0.48	0.48	0.50
バスケットボール	107	平均	4.19	4.69	4.69	4.87	4.76	4.77	4.68	4.78	4.49	4.64	4.72	4.76	4.74	4.71	4.57	4.56
		標準偏差	0.87	0.46	0.55	0.34	0.53	0.47	0.56	0.53	0.77	0.52	0.58	0.45	0.48	0.51	0.64	0.61
バドミントン	76	平均	4.24	4.61	4.71	4.76	4.64	4.58	4.71	4.72	4.67	4.54	4.74	4.62	4.72	4.75	4.55	4.59
		標準偏差	0.81	0.54	0.51	0.56	0.58	0.63	0.48	0.53	0.57	0.66	0.47	0.69	0.50	0.46	0.64	0.52
バレエエクササイズ	25	平均	4.56	4.88	4.84	4.88	4.68	4.88	4.84	4.76	4.68	4.76	4.84	4.68	4.68	4.60	4.40	4.68
		標準偏差	0.64	0.32	0.37	0.32	0.47	0.32	0.37	0.43	0.47	0.43	0.37	0.47	0.47	0.49	0.63	0.47
バレーボール	207	平均	4.12	4.63	4.70	4.74	4.74	4.72	4.71	4.75	4.40	4.55	4.71	4.75	4.78	4.68	4.40	4.55
		標準偏差	0.81	0.53	0.51	0.49	0.45	0.51	0.48	0.54	0.77	0.59	0.49	0.54	0.48	0.57	0.81	0.66
ハンドボール	20	平均	4.10	4.50	4.60	4.80	4.75	4.30	4.70	4.80	4.45	4.65	4.75	4.60	4.75	4.80	4.40	4.60
		標準偏差	0.70	0.59	0.58	0.40	0.54	0.78	0.56	0.40	0.80	0.73	0.43	0.49	0.43	0.40	0.80	0.49
ピラティス	18	平均	4.40	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.90	4.90	4.70	4.90	4.80	4.90	4.90	4.80	3.80	4.60
		標準偏差	0.66	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.30	0.30	0.46	0.30	0.40	0.30	0.30	0.40	0.87	0.66
フィットネストレーニング	40	平均	4.55	4.93	4.93	4.90	4.85	4.85	4.88	4.88	4.65	4.70	4.80	4.55	4.75	4.88	4.08	4.48
		標準偏差	0.74	0.26	0.26	0.49	0.36	0.36	0.33	0.33	0.53	0.46	0.51	0.55	0.43	0.33	0.88	0.74
フェンシング	15	平均	4.40	4.87	4.80	5.00	4.80	4.33	4.73	4.93	4.93	4.67	4.93	4.80	4.73	4.73	4.47	4.60
		標準偏差	0.61	0.34	0.40	0.00	0.40	0.94	0.44	0.25	0.25	0.47	0.25	0.40	0.57	0.44	0.62	0.49
フットサル	143	平均	4.18	4.65	4.80	4.82	4.78	4.72	4.72	4.71	4.57	4.62	4.71	4.64	4.63	4.66	4.42	4.58
		標準偏差	0.86	0.49	0.44	0.42	0.45	0.51	0.45	0.53	0.63	0.60	0.47	0.55	0.66	0.64	0.74	0.58
フライングディスク	14	平均	4.29	4.79	4.71	4.93	4.79	4.79	4.71	4.79	4.86	4.71	4.71	4.07	4.64	4.57	4.36	4.36
		標準偏差	0.70	0.41	0.45	0.26	0.41	0.41	0.45	0.41	0.35	0.45	0.59	0.96	0.48	0.62	0.61	0.89
ボクシング	21	平均	4.23	4.64	4.50	4.64	4.45	4.23	4.55	4.59	4.36	4.50	4.55	4.55	4.23	4.36	3.91	4.09
		標準偏差	0.95	0.48	0.66	0.88	0.58	0.79	0.50	0.49	0.77	0.50	0.50	0.50	0.95	0.77	0.85	0.79
ヨガ	10	平均	4.20	4.60	4.30	4.60	4.40	4.90	4.80	4.70	4.60	4.80	4.70	4.70	4.50	4.70	4.10	4.10
		標準偏差	0.60	0.49	0.64	0.92	0.66	0.30	0.40	0.46	0.66	0.40	0.64	0.46	0.50	0.46	0.70	0.83
オンラインヨガ	7	平均	4.86	4.86	4.86	4.86	4.57	4.71	4.86	4.86	4.71	4.86	3.71	4.86	4.86	4.86	4.71	4.71
		標準偏差	0.35	0.35	0.35	0.35	0.49	0.45	0.35	0.35	0.45	0.35	0.88	0.35	0.35	0.35	0.45	0.45
ヨガ＆ピラティス	4	平均	4.50	5.00	4.75	5.00	4.75	5.00	4.75	5.00	5.00	4.75	4.75	4.50	4.75	4.75	4.00	4.50
		標準偏差	0.50	0.00	0.43	0.00	0.43	0.00	0.43	0.00	0.00	0.43	0.43	0.50	0.43	0.43	1.00	0.50
レクリエーショナルスポーツ	19	平均	4.42	4.74	4.89	4.89	4.84	4.68	4.74	4.79	4.63	4.68	4.79	4.58	4.63	4.68	3.84	4.53
		標準偏差	0.75	0.44	0.31	0.31	0.36	0.57	0.55	0.41	0.48	0.46	0.41	0.59	0.58	0.57	1.04	0.50
気功	27	平均	4.30	4.44	4.56	4.85	4.48	4.04	4.59	4.59	4.52	4.44	4.59	4.37	4.33	4.04	3.30	4.15
		標準偏差	0.66	0.63	0.57	0.36	0.63	0.92	0.56	0.49	0.57	0.63	0.56	0.67	0.54	0.96	1.18	0.85
器械体操	7	平均	4.71	4.86	4.71	5.00	4.86	4.86	4.71	5.00	4.86	4.57	5.00	4.86	4.86	4.71	4.71	4.57
		標準偏差	0.45	0.35	0.45	0.00	0.35	0.35	0.45	0.00	0.35	0.73	0.00	0.35	0.35	0.45	0.70	0.73
空手	11	平均	4.36	4.82	4.82	4.91	4.91	4.82	4.82	4.91	4.73	4.73	4.64	4.82	4.73	4.55	4.27	4.73
		標準偏差	1.15	0.39	0.39	0.29	0.29	0.39	0.39	0.29	0.45	0.45	0.48	0.39	0.45	0.66	0.96	0.45
剣道	15	平均	4.67	4.73	5.00	5.00	4.87	5.00	5.00	4.87	4.87	4.80	4.93	5.00	4.87	4.67	4.33	4.67
		標準偏差	0.47	0.44	0.00	0.00	0.34	0.00	0.00	0.34	0.34	0.40	0.25	0.00	0.34	0.47	0.87	0.47
合氣道	11	平均	4.27	4.82	4.73	4.64	4.91	4.91	4.82	4.82	4.91	4.45	4.82	4.82	4.91	4.55	4.18	4.73
		標準偏差	0.86	0.39	0.45	1.15	0.29	0.29	0.39	0.39	0.29	0.66	0.39	0.39	0.29	0.78	0.57	0.45
自動車	21	平均	4.57	4.76	4.86	4.95	4.76	4.86	4.86	4.86	4.90	4.62	4.90	4.76	4.90	3.76	3.95	3.67
		標準偏差	0.73	0.43	0.35	0.21	0.43	0.47	0.47	0.47	0.29	0.65	0.29	0.43	0.29	1.34	1.13	1.32
柔道	3	平均	3.33	4.00	4.67	5.00	5.00	5.00	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.00	3.67
		標準偏差	1.25	0.00	0.47	0.00	0.00	0.00	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.82	1.25
水泳	55	平均	4.25	4.84	4.84	4.93	4.82	4.78	4.76	4.73	4.69	4.71	4.69	4.75	4.67	4.71	4.38	4.47
		標準偏差	0.99	0.37	0.37	0.32	0.39	0.41	0.42	0.55	0.50	0.45	0.57	0.48	0.51	0.45	0.70	0.71
太極拳	19	平均	4.21	4.53	4.74	4.74	4.68	4.63	4.58	4.68	4.58	4.58	4.63	4.53	4.58	4.42	3.95	4.47
		標準偏差	0.61	0.50	0.55	0.44	0.46	0.58	0.59	0.73	0.49	0.59	0.48	0.60	0.59	0.67	0.89	0.50
卓球	60	平均	4.22	4.68	4.73	4.80	4.78	4.80	4.70	4.80	4.60	4.58	4.82	4.72	4.78	4.65	4.48	4.62
		標準偏差	0.66	0.47	0.44	0.40	0.41	0.44	0.53	0.44	0.61	0.56	0.39	0.49	0.41	0.51	0.62	0.58
軟式野球	9	平均	4.11	4.33	4.56	4.67	4.22	4.56	4.67	4.67	4.22	4.33	4.78	4.44	4.89	4.67	4.44	4.56
		標準偏差	0.87	0.47	0.50	0.47	0.63	0.50	0.47	0.47	0.79	0.67	0.42	0.50	0.31	0.47	0.50	0.50
実技全体	1297	平均	4.32	4.70	4.73	4.86	4.71	4.72	4.74	4.78	4.66	4.62	4.73	4.65	4.70	4.60	4.23	4.46
		標準偏差	0.20	0.16	0.14	0.28	0.15	0.24	0.11	0.15	0.18	0.11	0.14	0.15	0.13	0.20	0.17	0.20

表Ⅲ-1-10．種目別の５段階評価集計一覧（秋学期ウィークリー）

種目名	回答数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
アーチェリー	25	平均	4.16	4.68	4.72	4.84	4.72	4.64	4.72	4.72	4.64	4.60	4.84	4.56	4.52	3.84	3.84	4.32
		標準偏差	0.88	0.47	0.45	0.37	0.53	0.69	0.45	0.53	0.56	0.57	0.37	0.75	0.70	1.01	1.08	0.68
エアロビクス	23	平均	4.57	4.83	4.87	4.91	4.74	4.87	4.87	4.91	4.87	4.83	4.83	4.70	4.74	4.83	4.52	4.78
		標準偏差	0.50	0.38	0.34	0.28	0.53	0.34	0.34	0.28	0.34	0.38	0.48	0.55	0.53	0.38	0.65	0.41
エアロビクス＆ヨガ	2	平均	4.50	5.00	5.00	4.50	3.50	4.00	4.50	4.50	5.00	4.50	4.50	3.50	4.50	5.00	3.50	4.00
		標準偏差	0.50	0.00	0.00	0.50	0.50	1.00	0.50	0.50	0.00	0.50	0.50	0.50	0.50	0.00	0.50	0.00
ゴルフ	20	平均	4.35	4.45	4.55	4.95	4.30	4.65	4.55	4.70	4.50	4.30	4.75	4.10	4.75	4.40	4.30	4.35
		標準偏差	0.57	0.74	0.59	0.22	0.71	0.48	0.59	0.56	0.67	0.56	0.43	0.89	0.43	0.80	1.00	0.57
サッカー	38	平均	4.11	4.53	4.55	4.76	4.55	4.61	4.61	4.66	4.47	4.47	4.74	4.55	4.61	4.74	4.58	4.47
		標準偏差	1.07	0.55	0.68	0.43	0.64	0.59	0.59	0.57	0.79	0.82	0.44	0.64	0.59	0.44	0.59	0.72
スマートウォーキング	8	平均	4.75	4.88	5.00	5.00	4.88	4.75	4.75	4.88	4.75	4.75	4.88	4.75	4.88	4.50	4.00	4.50
		標準偏差	0.43	0.33	0.00	0.00	0.33	0.43	0.43	0.33	0.43	0.43	0.33	0.43	0.33	0.71	0.71	0.50
ソフトボール	29	平均	4.17	4.69	4.86	4.86	4.59	4.79	4.76	4.76	4.59	4.62	4.72	4.76	4.69	4.48	4.31	4.66
		標準偏差	1.12	0.46	0.34	0.34	0.56	0.41	0.43	0.43	0.56	0.49	0.45	0.43	0.46	0.72	0.95	0.48
テニス	93	平均	4.37	4.67	4.75	4.84	4.77	4.69	4.76	4.74	4.61	4.65	4.72	4.71	4.68	4.66	4.53	4.52
		標準偏差	0.76	0.49	0.43	0.37	0.44	0.57	0.42	0.46	0.55	0.52	0.45	0.52	0.47	0.63	0.68	0.68
トランポリン	3	平均	4.67	4.33	4.67	5.00	4.33	4.00	4.67	4.67	4.67	4.33	4.67	3.00	4.67	4.33	4.00	4.33
		標準偏差	0.47	0.47	0.47	0.00	0.47	0.00	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	1.63	0.47	0.94	0.00	0.47
バスケットボール	97	平均	4.05	4.59	4.62	4.78	4.62	4.58	4.61	4.76	4.43	4.64	4.77	4.74	4.73	4.74	4.40	4.55
		標準偏差	1.20	0.57	0.56	0.46	0.56	0.67	0.58	0.51	0.76	0.56	0.47	0.48	0.51	0.56	0.80	0.70
バドミントン	28	平均	4.14	4.54	4.71	4.86	4.57	4.64	4.64	4.71	4.64	4.54	4.71	4.61	4.71	4.71	4.50	4.54
		標準偏差	1.03	0.68	0.65	0.35	0.62	0.61	0.67	0.59	0.61	0.87	0.52	0.67	0.52	0.45	0.68	0.63
バレエエクササイズ	10	平均	4.80	4.80	4.80	4.70	4.90	4.90	4.90	4.90	4.40	4.80	4.80	4.90	4.80	4.70	4.20	4.60
		標準偏差	0.40	0.40	0.40	0.46	0.30	0.30	0.30	0.30	0.66	0.40	0.40	0.30	0.40	0.46	0.75	0.49
バレーボール	85	平均	4.31	4.62	4.68	4.73	4.71	4.72	4.75	4.76	4.49	4.58	4.73	4.78	4.73	4.67	4.51	4.60
		標準偏差	0.69	0.53	0.49	0.47	0.48	0.48	0.43	0.45	0.68	0.60	0.47	0.44	0.56	0.58	0.66	0.56
ハンドボール	11	平均	4.36	4.36	4.27	4.73	4.27	3.82	3.91	3.82	4.09	3.91	4.09	3.91	4.09	4.36	3.64	4.18
		標準偏差	0.64	0.48	0.86	0.62	0.45	0.72	1.08	1.27	1.16	1.00	1.16	1.44	1.16	0.98	1.37	0.83
ピラティス	25	平均	4.44	4.88	4.92	4.76	4.84	4.96	4.92	4.88	4.80	4.80	4.88	4.88	4.68	4.80	4.52	4.68
		標準偏差	0.57	0.32	0.27	0.65	0.37	0.20	0.27	0.32	0.49	0.40	0.32	0.32	0.47	0.40	0.57	0.47
フィットネストレーニング	38	平均	4.66	4.79	4.76	4.84	4.79	4.79	4.82	4.87	4.74	4.74	4.82	4.53	4.76	4.87	4.53	4.66
		標準偏差	0.53	0.41	0.43	0.36	0.41	0.47	0.39	0.34	0.44	0.44	0.39	0.55	0.43	0.34	0.60	0.47
フェンシング	9	平均	4.56	4.67	4.67	5.00	4.89	4.56	4.78	4.89	4.78	4.78	4.89	4.89	4.78	4.78	4.44	4.56
		標準偏差	0.50	0.47	0.47	0.00	0.31	0.68	0.42	0.31	0.42	0.42	0.31	0.31	0.42	0.42	0.68	0.50
フットサル	61	平均	3.97	4.74	4.80	4.90	4.79	4.77	4.75	4.69	4.66	4.79	4.70	4.62	4.67	4.77	4.62	4.72
		標準偏差	0.96	0.54	0.44	0.30	0.41	0.46	0.50	0.56	0.60	0.45	0.49	0.61	0.65	0.46	0.63	0.48
フライングディスク	10	平均	4.30	4.80	4.90	4.90	4.90	4.90	4.70	4.80	4.60	4.60	4.80	5.00	4.70	4.80	4.80	4.70
		標準偏差	0.90	0.40	0.30	0.30	0.30	0.30	0.46	0.40	0.66	0.66	0.40	0.00	0.46	0.40	0.40	0.46
ボクシング	14	平均	4.14	4.50	4.64	4.86	4.57	4.50	4.71	4.71	4.64	4.57	4.79	4.57	4.71	4.57	4.64	4.64
		標準偏差	0.74	0.63	0.61	0.52	0.62	0.82	0.59	0.59	0.61	0.62	0.41	0.73	0.59	0.62	0.61	0.48
ヨガ	3	平均	4.67	5.00	5.00	4.67	5.00	5.00	4.67	4.67	4.33	5.00	5.00	5.00	4.67	5.00	4.00	4.33
		標準偏差	0.47	0.00	0.00	0.47	0.00	0.00	0.47	0.47	0.47	0.00	0.00	0.00	0.47	0.00	0.82	0.47
オンラインヨガ	10	平均	4.30	4.60	4.60	4.80	4.30	4.70	4.50	4.60	4.50	4.50	4.40	3.50	4.60	4.60	4.10	4.50
		標準偏差	1.00	0.49	0.49	0.40	1.00	0.46	0.67	0.49	0.67	0.67	0.92	0.81	0.49	0.49	0.70	0.50
ヨガ＆ピラティス	7	平均	4.57	4.71	4.57	4.86	4.57	4.57	4.71	4.57	4.57	4.71	4.86	4.29	4.86	5.00	4.14	4.71
		標準偏差	0.73	0.45	0.49	0.35	0.73	0.73	0.45	0.49	0.49	0.45	0.35	0.70	0.35	0.00	0.64	0.45
レクリエーショナルスポーツ	15	平均	4.67	4.60	4.73	4.87	4.80	4.87	4.73	4.80	4.73	4.73	4.80	4.73	4.73	4.53	4.33	4.67
		標準偏差	0.47	0.61	0.44	0.34	0.40	0.34	0.57	0.40	0.44	0.57	0.40	0.44	0.44	0.88	0.87	0.47
気功	20	平均	4.75	4.95	4.90	4.90	4.95	4.05	4.85	4.90	4.85	4.85	4.90	4.60	4.85	4.75	4.05	4.35
		標準偏差	0.70	0.22	0.30	0.30	0.22	1.36	0.36	0.30	0.36	0.36	0.30	0.66	0.36	0.54	1.24	1.06
空手	14	平均	4.43	4.86	4.93	4.93	4.93	4.93	4.93	4.86	4.79	4.86	4.86	4.79	4.50	4.43	4.29	4.64
		標準偏差	0.49	0.35	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.35	0.56	0.52	0.35	0.41	0.91	0.90	0.88	0.72
剣道	35	平均	4.34	4.83	4.94	5.00	4.91	4.91	4.86	4.86	4.91	4.74	4.80	4.74	4.74	4.51	4.69	4.57
		標準偏差	0.79	0.45	0.23	0.00	0.28	0.28	0.35	0.35	0.28	0.44	0.40	0.50	0.50	0.91	0.67	0.84
合氣道	12	平均	4.42	4.83	4.83	5.00	4.83	5.00	4.92	4.92	4.92	4.83	4.83	4.75	4.75	4.67	4.08	4.58
		標準偏差	0.76	0.37	0.37	0.00	0.37	0.00	0.28	0.28	0.28	0.37	0.37	0.43	0.43	0.47	1.04	0.64
自動車	14	平均	4.64	4.50	4.50	4.93	4.57	4.64	4.86	4.86	4.79	4.64	4.86	4.57	4.71	3.50	4.07	4.29
		標準偏差	0.48	0.50	0.50	0.26	0.49	0.48	0.35	0.35	0.41	0.48	0.35	0.62	0.45	1.12	0.88	0.80
柔道	11	平均	4.45	4.91	4.82	5.00	4.91	4.91	4.73	4.91	4.64	4.82	4.82	4.64	4.82	4.64	4.36	4.45
		標準偏差	0.50	0.29	0.39	0.00	0.29	0.29	0.45	0.29	0.48	0.39	0.39	0.48	0.39	0.48	0.64	0.66
水泳	59	平均	4.20	4.78	4.81	4.90	4.83	4.61	4.81	4.83	4.76	4.78	4.80	4.64	4.68	4.80	4.46	4.61
		標準偏差	0.95	0.41	0.50	0.30	0.42	0.78	0.47	0.38	0.46	0.41	0.48	0.63	0.53	0.40	0.72	0.61
太極拳	23	平均	3.83	4.52	4.43	4.48	4.30	4.61	4.48	4.39	4.39	4.30	4.26	3.48	4.17	4.39	3.61	4.30
		標準偏差	1.24	0.88	0.88	0.71	0.95	0.87	0.71	0.87	0.71	0.91	0.99	1.06	0.76	0.77	1.13	0.95
卓球	66	平均	4.17	4.71	4.79	4.86	4.79	4.86	4.77	4.76	4.67	4.74	4.86	4.73	4.85	4.68	4.65	4.70
		標準偏差	0.81	0.45	0.48	0.38	0.48	0.34	0.49	0.58	0.61	0.53	0.34	0.64	0.36	0.53	0.54	0.49
軟式野球	7	平均	4.71	4.43	4.43	4.71	4.43	4.29	4.43	4.43	4.29	4.29	4.43	4.43	4.43	4.43	4.00	4.29
		標準偏差	0.45	0.49	0.49	0.45	0.49	0.70	0.49	0.49	0.70	0.45	0.49	0.49	0.49	0.49	0.76	0.70
実技全体	925	平均	4.40	4.69	4.74	4.84	4.66	4.65	4.70	4.73	4.63	4.63	4.74	4.50	4.67	4.60	4.27	4.51
		標準偏差	0.24	0.17	0.20	0.19	0.19	0.28	0.15	0.19	0.19	0.18	0.20	0.32	0.16	0.27	0.25	0.19

2）シーズンスポーツ種目の授業評価

シーズンスポーツ種目における５段階評価（平均値±標準偏差）を図Ⅲ-1-3および表Ⅲ-1-11に示した。2021年度のシーズンスポーツは新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、ビーチバレー、アウトドアレクリエーション、マリンスポーツアクティビティ、およびスケートが実施された。授業評価はすべての項目とも平均値で４点をこえる肯定的評価が得られている。特に「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」、「教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した」、「教員の指導・教授方法は適切であった」、「教員は授業への学生の参加を促し、適切に助言した」、「この授業は塾生にとってふさわしいものだった」、「この授業は自分にとって満足出来るものであった」（4.93±0.07）が高い得点を示した。一方、「自分はこの授業に意欲的に取り組んだ」（4.36±0.36）は他の項目と比較して低い値を示した。



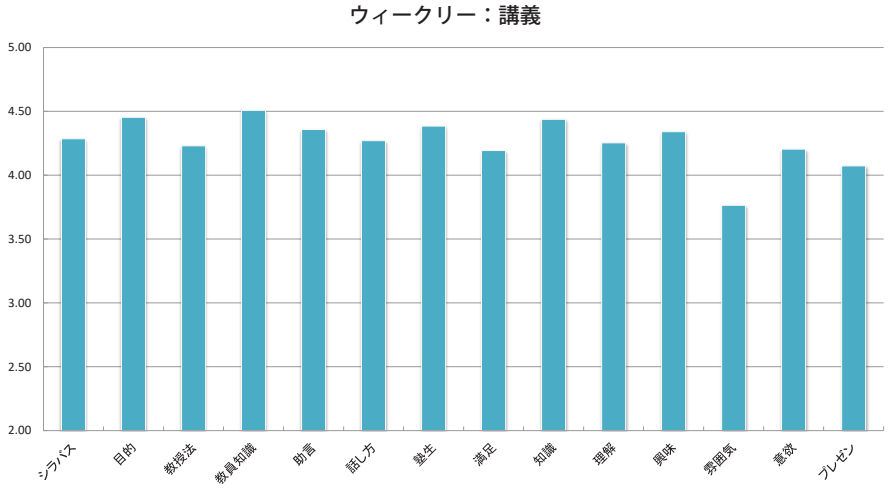
図Ⅲ-1-3．授業に関する質問項目別の５段階評価（シーズンスポーツ平均）

表Ⅲ-1-11．種目別の５段階評価集計一覧（シーズンスポーツ）

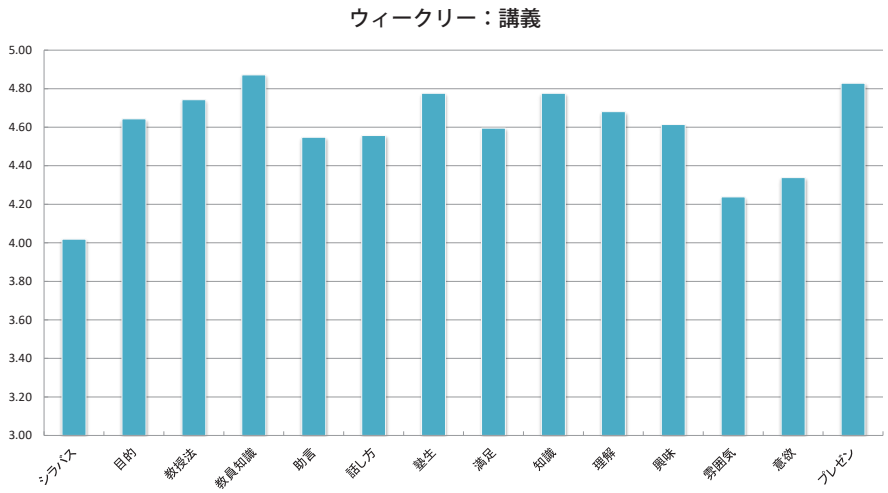
種目名	回答数		シラバス	目的	教授法	教員知識	助言	話し方	塾生	満足	知識	理解	興味	雰囲気	意欲	体力	技術	運動量
ビーチバレー	1	平均	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アウトドアレクリエーション	0	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マリンスポーツアクティビティ	0	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		標準偏差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
スケート	7	平均	4.57	4.86	4.86	4.86	4.86	4.57	4.86	4.86	4.86	4.86	4.86	4.71	4.71	4.57	4.71	4.57
		標準偏差	0.49	0.35	0.35	0.35	0.35	0.49	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35	0.45	0.45	0.49	0.45	0.49
シーズン全体	8	平均	4.79	4.93	4.93	4.93	4.93	4.79	4.93	4.93	4.93	4.93	4.93	4.86	4.36	4.79	4.86	4.79
		標準偏差	0.21	0.07	0.07	0.07	0.07	0.21	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	0.36	0.21	0.14	0.21

3）講義・演習科目の授業評価

講義・演習科目の授業評価についての結果を図Ⅲ-1-4（春学期）、図Ⅲ-1-5（秋学期）に示した。多くの項目において平均値が 4 点をこえる肯定的評価が得られている。特に昨年度同様、「教員はこの授業についての十分な知識を持っていた」は高い値を示した（春：4.51±0.12、秋：4.87±0.28）。また、「この授業によって知識を深めることができた」（春：4.44±0.11、秋：4.78±0.18）および「教員は授業の目的および目標をわかりやすく説明した」（春：4.45±0.14、秋：4.64±0.32）についても評価が高かった。しかしながら、「このクラスの雰囲気は良好であった」（春：3.77±0.32、秋：4.24±0.44）については他の項目に比べて低評価となった。これは、本年度の講義は一部がオンデマンド授業であったことが影響していると考えられる。



図Ⅲ-1-4．授業に関する質問項目別の 5 段階評価（春学期講義全体平均）



図Ⅲ-1-5．授業に関する質問項目別の 5 段階評価（秋学期講義全体平均）

3．通信教育対象科目

1）体育理論

レポートおよび試験問題の出題・採点を、永田直也君、福士徳文君で担当した。

2）体育実技スクーリング

2021年８月10日から15日に「ヨガエクササイズ」を奥山靜代君が、また８月17日から22日に「ピラティス（健康身体つくり）」を板垣悦子君が、いずれもリアルタイム（ライブ）形式のオンライン授業で担当した。これら２種目はいずれも「スポーツセミナー」という２単位の授業であった。これらの種目の履修者数等を表Ⅲ-1-12に示す。

表Ⅲ-1-12．2021年度通信教育部体育実技スクーリング開講種目および担当者一覧

	種　目　名	担当者	定　員	履修者数	充足率
スポーツセミナー	ピラティス（健康身体つくり）	板垣　悦子	30	28	93%
	ヨガエクササイズ	奥山　靜代	30	23	77%
合　計			60	51	85%

4．塾内における授業担当

日吉および三田において開講される体育研究所設置の体育科目及び通信教育部のテキスト科目・スクーリング科目に加え、各学部の設置科目の開講についても協力している。2021年度の他学部設置科目及び担当者を表Ⅲ-1-13に示す。

表Ⅲ-1-13．塾内における授業担当協力

授業科目名	担当者	開講学部など	曜日時限など
地域住民の健康サポート体験学習	板垣　悦子	薬学部	春・秋学期水曜６時限
体育１	野口　和行	総合政策学部 環境情報学部	春学期月曜４時限
体育２～５	野口　和行	総合政策学部 環境情報学部	春学期月曜３時限 秋学期月曜２・３時限
人体の科学	佐々木玲子 村山　光義	理工学部	秋学期水曜５時限

Ⅲ－２．スポーツイベントの開催
（スポーツ振興委員会）

１．塾内競技大会
１）新春塾内卓球大会
１．開 催 日：2020年１月８日（土）
２．会　　場：スポーツ棟　地下１階
　　卓球場
３．開催時間：10:00～13:00
４．参加者数：30名
５．ゲーム形式：11点先取３ゲームスマッチ
６．結　　果
ダブルス（中・上級の部）
　優　勝：進藤寛史（文１年）
　　飯田昂平（商１年）
ダブルス（温泉の部）
　優　勝：廣瀬和輝（理４年）
　　飯田寛明（文４年）
シングルス（上級の部）
　優　勝：寺岡英晋（体育研究所）
　準優勝：進藤寛史（文１年）
シングルス（中級の部）
　優　勝：中田大晴（法３年）
　準優勝：河野礼子（文学部教員）

※集合写真撮影時のみマスクを外しています。

シングルス（温泉の部）
　優　勝：瀬戸口賢大（法２年）
　準優勝：深町広輝（商２年）
７．コメント：
　昨年度は中止となったため２年ぶりの開催となった。十分に感染症対策を講じながら、塾生および教職員の参加を得て、和やかな雰囲気の中で白熱した試合が行われた。スポーツを通して学年・学部の枠を超えた交流ができた貴重な機会となった。

２．公開講座
2021年度は新型コロナウイルスの感染症状況を踏まえ公開講座の開催は見送られた。

３．日吉キャンパスフォトラリー
2021年度も新型コロナウイルスの影響でキャンパスを訪れる機会が少ないこと、身体活動量の低下が見込まれることから、日吉キャンパスをめぐるフォトラリーを企画した。
１．趣　　旨：
　日吉キャンパスの見どころを歩いて巡り、新しい発見をしながら、心身ともに健康的な生活を手に入れる。
２．期　　間：
2021年６月３日（木）～６月30日（水）
３．対 象 者：
塾生、教職員
４．参加方法
１）Googleフォームにアクセス（keio.jp認証）して、地図をダウンロード、指定されたポイントの位置を確認する。
２）ポイントを探して、各地点で自撮りの写真（風景写真のみも可）を撮影する。
３）撮影した写真をフォームにアップロードする。
４）スポーツ棟１階受付にて、自動送

信された回答のコピーを提示し、参加者プレゼントを受け取る。

5．コメント

期間中に授業での利用も含め、76名の参加があった。参加者は体育会部員でなければ訪れることのない蝮谷施設や豊かな自然環境を満喫したようである。

訪れたポイントは下記の通り。

A．福澤諭吉像（メディアセンター横）
B．藤山記念館（藤山愛一郎氏は図書館の土地建物ごと寄贈）
C．慶應義塾高校校舎（記念館前の広場から撮影）
D．庭球部テニスコート脇の石碑（練習ハ不可能ヲ可能ニス）
E．慶應義塾高校グラウンド（弥生式竪穴式住居址の脇から撮影）
F．平沼亮三像（元日本体育協会会長、元衆議院議員、元横浜市市長、福沢諭吉門下生）

4．所内施設の開放

1）協生館トレーニングルーム開放

1．期　　間：
2021年11月１日（月）～
2022年１月21日（金）
2．曜日時間：月（16:30～18:00）・
水（14:45～16:15）・
金（16:30～18:00）
3．担 当 者
月・金：寺岡英晋（助教）
水：東原綾子（助教）
4．利用者数：96名
5．コメント：

今年度は秋学期に限り、１日あたり最大８名の人数制限と予約システムを設けてトレーニングルームを開放した。全体的に３・４年生や大学院生の利用が目立ったため、今後は１・２年生が積極的に利用できるための方法を検討していきたい。

2）協生館プールの開放、多目的コートの貸し出しは行わなかった。

Ⅲ－３．他機関との連携

１．一貫校連携

Ⅰ．幼稚舎館山遠泳合宿（水泳指導教員）

講師：鳥海崇

2021年度は中止となった。

Ⅱ．幼稚舎体育特別授業

講師：須田芳正

2021年度は中止となった。

２．体育会支援

石手　靖　　体育会参与
吉田　泰将　剣道部師範、医学部剣道部師範代行
須田　芳正　体育会副理事（2021年７月31日まで）
鳥海　崇　　体育会副理事
坂井　利彰　体育会副理事、庭球部監督
奥山　靜代　体育会アドバイザー
永田　直也　体育会アドバイザー
福士　徳文　体育会副理事（2021年８月１日より）、体育会アドバイザー
稲見　崇孝　体育会アドバイザー

Ⅳ. 業務活動記録

Ⅳ．業務活動記録

2021年度総務分野関係報告

1　人事

⑴　就任（新規）
　山口翔大君（特任助教（有期）（研究）（非常勤））

2　塾内役職

⑴　大学寄宿舎舎監
　野口和行君（～9/30）
⑵　大学寄宿舎委員会委員
　野口和行君
⑶　大学教養研究センター運営委員
　石手　靖君（所長）
⑷　大学教養研究センター所員
　石手　靖君・佐々木玲子君・村山光義君・
　加藤大仁君・村松　憲君・山内　賢君・
　吉田泰将君・野口和行君
⑸　大学学生総合センター副部長（日吉支部）
　村山光義君
⑹　体育会副理事
　須田芳正君（～7/31）
　坂井利彰君
　鳥海　崇君
　福士徳文君（8/1～）
⑺　体育会参与
　石手　靖君（所長）
⑻　日吉行事企画委員会（HAPP）委員
　石手　靖君
⑼　立科山荘運営委員会委員
　野口和行君
⑽　日吉キャンパス公開講座運営委員会委員
　野口和行君
⑾　日吉記念館運営連絡協議会委員
　石手　靖君・加藤幸司君・鳥海　崇君
⑿　慶應義塾研究倫理委員会研究倫理審査委員会
　佐々木玲子君
⒀　大学保健管理センター運営委員
　石手　靖君（所長）
⒁　大学スポーツ医学研究センター運営委員
　石手　靖君（所長）
⒂　日吉キャンパス衛生委員
　山内　賢君
⒃　Hiyoshi Research Portfolio（HRP）運営委員
　石手　靖君（所長）
⒄　通信教育部学務委員
　村松　憲君

3　研究所内役職の主なもの

⑴　所　長
　石手　靖君
⑵　人事委員会委員
　石手　靖君・佐々木玲子君・村山光義君・
　加藤大仁君・村松　憲君・須田芳正君・
　野口和行君・山内　賢君
⑶　学習指導主任
　村松　憲君（～9/30）
　永田直也君（10/1～）
⑷　学習指導副主任
　永田直也君（～9/30）
　福士徳文君（10/1～）
⑸　総務委員会委員長
　奥山靜代君
⑹　教育委員会委員長
　村松　憲君（～9/30）
　永田直也君（10/1～）
⑺　研究委員会委員長
　鳥海　崇君
⑻　スポーツ振興委員会委員長
　野口和行君
⑼　将来構想委員会委員長
　坂井利彰君
⑽　活動報告書編集委員会委員長
　奥山靜代君

4　その他

⑴　義塾派遣留学
　須田芳正君（2021/8/24～2022/8/23）
　※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い当初
　　予定期間（2020/9/1～2021/8/23）から変更

（主事　寺島博之）

2021年度活動報告書

2022年5月発行

［非売品］

編　集：活動報告書編集委員会
奥山　静代（委員長）
坂井　利彰　　福士　徳文
東原　綾子　　寺岡　英晋　　清水　花菜
発　行：慶應義塾大学体育研究所
〒223-8521　横浜市港北区日吉4－1－1
制　作：(有)梅沢印刷所
〒108-8345　港区三田2－15－45